

令和5年4月19日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	イネミズゾウムシ	少 予想発生時期早	2月越冬量：少(-) 気象予報：気温高(+) 3月1日以降の有効積算温度：高	<ul style="list-style-type: none"> 常発地や昨年多発したほ場では、苗箱処理剤で薬剤防除する。 移植10日後ごろの飛来成虫数が2～3株に1頭以上の時は、成虫を対象に薬剤防除する。
	ヒメトビウンカ	並	2月越冬量：並	<ul style="list-style-type: none"> イネ縞葉枯病を媒介する。 昨年、栽培期間中や再生株で縞葉枯病が多発したほ場では、苗箱処理剤で薬剤防除する。
	イネクロカメムシ	並	2月越冬量：並	<ul style="list-style-type: none"> 越冬成虫の水田への侵入時期は5月下旬から6月である。 苗箱処理剤での防除では6月まで効果の持続する薬剤を選択する。
	イネドロオウムシ	並	前年6月の発生量：並	<ul style="list-style-type: none"> 常発地や昨年多発したほ場では、苗箱処理剤で薬剤防除する。 侵入最盛期(5月中旬ごろ)の飛来成虫数が10株に2頭以上の時は、薬剤防除する。
	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	並	冬季気温(12～2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値)：並	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県HPに掲載されている以下の資料を参照する。 「STOP! ジャンボタニシ被害」 (リーフレット) https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r3_zyantani_tirashi.pdf

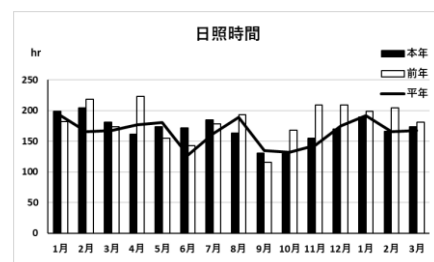
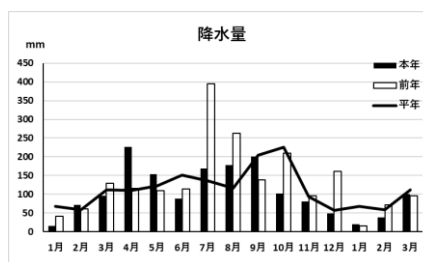
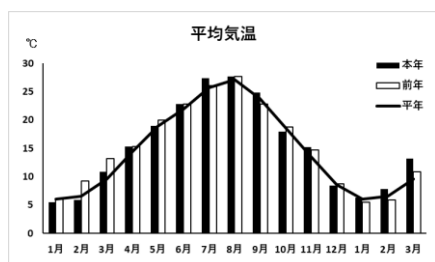
作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	やや少	4月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間少か並（＋）	・ 被害茎葉は、施設外に持ち出し、適切に処分する。
	灰色かび病	やや多	4月上旬発生量 ：やや多（＋） 気象予報：日照時間少か並（＋）	・ 施設内の換気を良くし、湿度を下げる。 ・ 被害果や被害茎葉は施設外に持ち出し、適切に処分する。 ・ 令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照する。
	コナジラミ類	並	4月上旬発生量 オンシツコナジラミ ：並〔発生なし〕 タバココナジラミ ：やや多（＋） 3月黄色粘着トラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温高（＋） 日照時間少か並（－）	・ 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 ・ 栽培終了時にはハウス内を除草、トマトを抜根した状態でハウスを密閉し、完全に枯死させて本虫を死滅させる。
ス イ カ	つる枯病	やや多	4月上旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（＋）	・ ほ場の排水を良くする。 ・ 多湿を防ぐため、トンネルの換気を適切に行う。
	アブラムシ類	やや多	4月上旬発生量 ：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	・ ほ場周辺の雑草を除去する。 ・ 薬剤散布は葉裏まで十分かかるよう、丁寧にやる。 ・ 繁殖が早く、短期間で高密度となるため、防除適期を逃さずに早期防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	多	4月上旬発生量 ：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	
温 州 ミ カ ン	そうか病	やや多	3月下旬発生量 ：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（＋）	・ 新梢の長さ1cmくらいが防除適期である。
	ミカンハダニ	やや少	3月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	・ 冬期防除を見合わせていた園地では4～5月に防除を行う。 ・ マシン油乳剤（97%）は使用時期で希釈倍率が変わるので注意する。
カ ー ネ ー シ ョ ン	ハダニ類	並	3月下旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	アザミウマ類	少	3月下旬発生量：やや少（－） 3月黄色粘着トラップ誘殺数 ：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。

II その他の情報

令和4年度における農作物の主要病害虫の発生状況について

○気象概況（千葉市）

		気温(°C)			降水量(mm、%)			日照時間(hr、%)		
		本年	平年	差	本年	平年	比	本年	平年	比
2022	1月	5.5	6.1	-0.6	16	68	23	199	192	104
	2月	5.9	6.6	-0.7	72	59	122	205	165	124
	3月	10.9	9.6	1.3	95	111	85	181	168	108
	4月	15.3	14.5	0.8	226	110	205	162	177	91
	5月	19.0	18.9	0.1	154	122	126	174	181	96
	6月	22.8	21.9	0.9	88	151	58	171	127	135
	7月	27.4	25.7	1.7	169	137	123	185	163	114
	8月	27.7	27.1	0.6	178	116	154	163	189	86
	9月	24.8	23.8	1.0	201	205	98	130	135	97
	10月	17.9	18.6	-0.7	102	226	45	130	132	98
	11月	15.2	13.4	1.8	80	94	85	155	144	108
	12月	8.4	8.6	-0.2	48	57	85	170	175	97
2023	1月	6.3	6.1	0.2	20	68	30	189	192	99
	2月	7.8	6.6	1.2	38	59	64	167	165	101
	3月	13.2	9.6	3.6	101	111	90	174	168	104



■ 本年値 □ 前年値 — 平年値

2022年1月から2023年3月までの気象概況（アメダス千葉、銚子地方气象台提供）

気温：4月から9月は平年に比べて高く、10月以降はほぼ平年並であった。

降水量：6月を除き4月から8月までは、平年より多く、10月、1月は少なかった。

日照時間：6、7月は平年より多く、他の月はほぼ平年並であった。

参考：梅雨入り：6月6日頃（平年6月7日頃） 梅雨明け：7月23日頃（平年7月19日頃）

○ 病害虫発生状況(巡回調査・フェロモントラップ調査)

1 イネ(4～8月上旬調査)

病害虫名	調査項目	育苗期	5月7日 基準日	6月2日 基準日	6月18日 基準日	7月2日 基準日	7月16日 基準日	7月30日 基準日	収穫期
いもち病	発病苗箱率	並							
	葉いもち発病株率			並	やや少	やや多	並	並	
	葉いもち上位2葉 発病葉率							並	
	穂いもち発病株率							やや多	やや少
ばか苗病	発病苗箱率	多							
スクミ	被害株率		やや多	並					
リンゴガイ	貝密度(/m ²)		多	やや多					
大型斑点米 カメムシ類	捕獲成幼虫数					並	並	やや多	並

2 普通作物

(1) サツマイモ(6～10月上旬調査)

病害虫名	調査項目	6月	7月	8月	9月	10月
ハスモンヨトウ	寄生幼虫数	並	並	並	並	やや多
ナカジロシタバ	寄生幼虫数	並	やや少	やや少	やや多	やや多
イモキバガ	被害葉率	やや多	並	並	やや多	やや多
イモキバガ 以外	被害葉率	並	やや少	やや多	並	多

(2) ラッカセイ(7～9月上旬調査)

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月
茎腐病	発病株率	並	やや多	やや多
白絹病	発病株率	並	やや少	並
ヒョウタンゾウムシ類	被害株率	多	やや多	並

3 野菜

(1) スイカ(トンネル栽培)(4～6月上旬調査)

病害虫名	調査項目	4月	5月	6月
うどんこ病	発病葉率	並	並	並
アブラムシ類	成幼虫寄生葉率	並	並	多
ハダニ類	雌成虫寄生葉率	並	多	やや多

(2) サトイモ(6～9月上旬調査)

病害虫名	調査項目	6月	7月	8月	9月
汚斑病	発病葉率	並	並	並	並
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	並	並	並	並
ハダニ類	雌成虫寄生葉率	やや少	並	並	並

(3) 夏秋トマト (7~10月下旬調査)

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月	10月
萎凋症	萎凋株率	並	やや多	やや多	やや多
葉かび病	発病株率	並	並	並	並
灰色かび病	発病株率	並	並	やや多	やや多
灰色かび病	発病果率		並	並	並
黄化葉巻病	発病株率	多	やや多	多	並
うどんこ病	発病株率	並	並	やや多	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	多	多	多	やや多
タバココナジラミ	成虫寄生株率	多	多	多	やや多
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率	並	多	やや多	やや多

(4) 冬春トマト (12~4月上旬調査)

病害虫名	調査項目	12月	1月	2月	3月
うどんこ病	発病株率	やや多	やや多	やや多	やや多
灰色かび病	発病株率	多	並	やや多	並
灰色かび病	発病果率	多	並	並	並
黄化葉巻病	発病株率	並	並	やや多	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	並	並	並	並
タバココナジラミ	成虫寄生株率	やや多	並	並	やや多
ハスモンヨトウ	被害株率	並	多	並	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	並

(5) 秋冬ネギ (7~12月上旬調査)

病害虫名	調査項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さび病	発病度	やや少	並	並	並	並	並
べと病	発病株率	並	並	並	並	並	並
アブラムシ類	寄生株率	並	並	並	並	やや多	並
ハスモンヨトウ	被害株率	並	並	並	並	やや多	並
シロイチモジヨトウ	被害株率	並	やや多	やや多	やや多	並	並
ネギコガ	被害株率	並	並	並	並	並	並
ネギハモグリバエ	被害度	並	並	並	並	多	やや多

(6) 冬レタス (11~2月上旬調査)

病害虫名	調査項目	11月	12月	1月	2月
菌核病	発病株率	並	並	やや少	やや少
オオタバコガ	幼虫寄生株率	並	並	並	並

(7) イチゴ (10~3月上旬調査)

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
うどんこ病	発病株率	やや少	並	並	やや少	並	並
灰色かび病	発病株率	並	並	並	並	並	並
アザミウマ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	やや多	やや多	並
ハスモンヨトウ	被害株率	やや多	並	並	並	並	並
コナジラミ類	寄生株率	並	並	並	並	並	並

(8) 冬キャベツ (10~2月上旬調査)

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月
菌核病	発病株率	並	並	並	並	やや多
黒腐病	発病度	並	多	並	やや多	並
腐敗病	発病株率	並	並	並	並	並
ヨトウガ	卵幼虫寄生株率	並	並	並	並	並

(9) 春キャベツ (12~4月上旬調査)

病害虫名	調査項目	12月	1月	2月	3月
タマネギウワバ	寄生幼虫数/10株	並	並	並	並

(10) 冬春キュウリ (11~2月上旬調査)

病害虫名	調査項目	11月	12月	1月	2月
うどんこ病	発病葉率	少	少	やや少	少
べと病	発病葉率	並	並	並	少
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	並
オンシツコナジラミ	成虫寄生株率	やや少	並	並	並
タバココナジラミ	成虫寄生株率	やや多	やや多	並	並
ハモグリバエ類	幼虫寄生株率	やや多	並	並	並

(11) チョウ目害虫 (フェロモントラップ調査)

病害虫名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ハスモンヨトウ	やや少	少	やや少	やや少	やや少	並	少	少	やや少			
コナガ	やや少	やや多	並	少	並	並	並	並	やや少	やや少	並	並
シロイチモジヨトウ	-	やや多	並	やや多	多	多	やや多	やや多	やや多			

4 果樹

(1) ナシ (4~9月下旬調査)

病害虫名	調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月
黒星病	発病果率	多	やや多	やや多	並	並	
炭疽病	発病新梢率	並	並	並	並	並	並
シンクイムシ類	被害果率	並	並	並	並	並	
ハマキムシ類	被害果率			並	並	並	
ハダニ類	寄生葉率	並	並	並	やや少	やや少	並
吸ガ類	被害果率			並	並	並	

(2) カンキツ (温州ミカン) (3~11月下旬調査)

病害虫名	調査項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
かいよう病	発病葉率	やや多	並	並	やや多	やや多				
かいよう病	発病果率				並	並	並	並	並	
そうか病	発病葉率	並	並	並	並	やや多				
そうか病	発病果率				やや多	並	並	やや少	やや少	
黒点病	発病果率				並	並	並	やや少	やや多	
ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率	少	並	やや少	やや多	やや多	多	やや少	やや少	やや少
ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率	並	並	並	並	並	やや少	並	並	

(3) ビワ (3~5、9~10月下旬調査)

病害虫名	調査項目	3月	4月	5月		9月	10月
灰斑病	発病葉率	少	やや少	並		並	並
アブラムシ類	成幼虫寄生葉率	並	並	並		並	並
カミキリムシ類	被害穴数	並	並	やや少		並	並
カメムシ類	寄生果率		並	並			

(4) 果樹共通：果樹カメムシ類（フェロモントラップ調査）

病害虫名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
カメムシ類	やや多	やや多	並	やや多	やや多	並	並
シンクイムシ類	多	多	多	並	並	やや多	やや多
ハマキムシ類	並	多	やや少	やや少	やや少	少	やや少

5 花き

(1) カーネーション（9～3月下旬調査）

病害虫名	調査項目	9月	10月	11月	12月	1月	2月
立枯病	発病株率	並	やや少	やや少	並	並	並
萎凋病	発病株率	並	並	やや少	やや少	並	並
アブラムシ類	成幼虫寄生株率	並	並	並	並	並	並
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	並	並	並	並	並	並

(2) ストック（10～2月下旬調査）

病害虫名	調査項目	10月	11月	12月	1月	2月
(施設)コナガ	幼虫寄生株率	並	並	並	並	並
(露地)コナガ	幼虫寄生株率	やや少	やや少	やや少	やや少	並

菌核病、アブラムシ類、ハイマダラノメイガ 発生認められず。

● 特殊報、警報、注意報の発表状況

1 特殊報

令和4年10月26日 第1号 アズキさび病の県内初発生について

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：2月中旬、野菜：4月上旬、果樹・花き：3月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	イネミズゾウムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.06	1.44	0.10	前年7月調査 前年6月調査 前年6月調査	
		イネゾウムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.03	0.24		0.17
		イネクロカメムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.06	0.08		0.03
	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ スクミリンゴガイ	25株当たり寄生成幼虫数	0.01	0.75	0.01		
		畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	2.23	1.70	0.12		
		畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	0.37	1.63	0.16		
		25株当たり寄生成虫数	0.13	0.35	0.11		
		被害株率(%)	1.26	1.17	2.41		
冬春トマト (海匠、長生)	うどんこ病	発病株率(%)	0.40	2.87	9.60		
		灰色かび病	発病株率(%)	20.40	12.76		19.60
	葉かび病 アブラムシ類 オンシツコナジラミ タバココナジラミ コナジラミ類 ハスモンヨトウ ハモグリバエ類 アザミウマ類	発病果率(%)	0.38	0.27	0.10		
		果実発病度	2.30	1.59	0.78		
		発病株率(%)	0.00	0.20	0.00		
		成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.08	0.00		
		黄色粘着トラップ誘殺数	0.21	0.14	0.00		
		成虫寄生株率(%)	0.00	0.92	0.00		
		成虫寄生株率(%)	0.40	0.08	0.00		
		黄色粘着トラップ誘殺数	0.93	3.60	0.22		
幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00				
幼虫寄生株率(%)	0.00	0.36	0.40				
成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00				
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率(%)	2.40	1.62	0.00		
		黒腐病	発病度	0.00	0.10		0.00
	灰色かび病	発病株率(%)	0.80	1.84	0.00		
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	5.60	2.07	4.80		
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.21	0.00		
トンネルスイカ (印旛、山武)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
		アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.60	0.16		0.00
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.60	0.08	0.00		
	ウリハムシ	寄生成虫数	0.10	0.00	0.00		
ハウススイカ (印旛、山武)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00		0.00	2021~	
		アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.20			0.40
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.60		0.00		
	ウリハムシ	寄生成虫数	0.00		0.00		
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.12	0.03	0.00		
	かいよう病	発病度	0.00	0.04	0.04		
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	4.64	0.00		
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	0.75	3.95	0.00		
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.08	0.00		
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率(%)	0.00	1.26	0.00		
		立枯病	発病株率(%)	0.00	1.10		1.60
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	1.14	0.00		
		被害株率(%)	0.80	11.20	0.00		
		黄色粘着トラップ誘殺数	0.71	6.08	1.45		
	ハダニ類	雌成虫寄生株率(%)	0.00	2.02	0.00		

トラップ月間誘殺数（3月）

種類	害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（頭/日）			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠	0.46	0.61	0.14	
性フェロモン	ハスモンヨトウ	海匠	0.11	0.06	0.03	

○気象予報

4月13日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

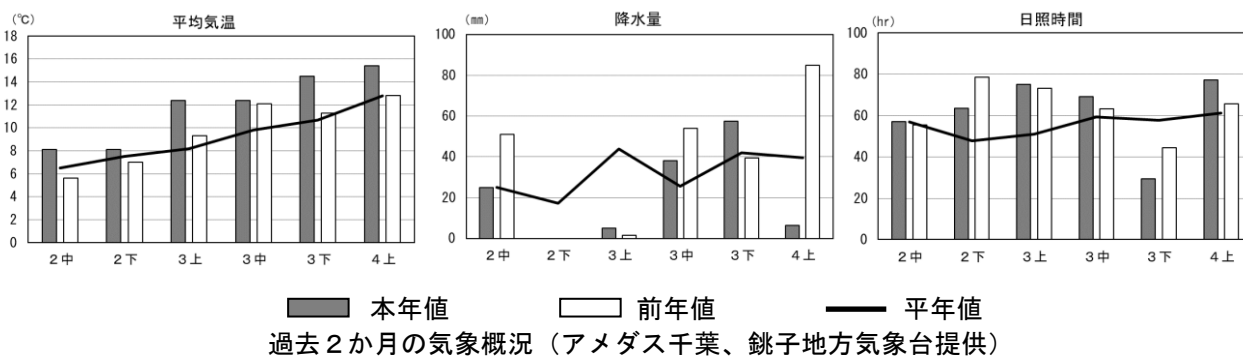
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	30	60
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(4月15日～5月14日銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	16.8	15.7	16.6
降水量(mm)	101.6	116.8	144.6
日照時間(hr)	175.6	181.8	179.4



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は5月17日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和5年5月17日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	並	育苗期発生量：並〔発生なし〕 気象予報：気温並か高(+) 降水量並	・ ほ場に置いた補植用置き苗は、発生源となりやすいので早めに処分する。
	ばか苗病	やや多	苗発病度：やや多(+)	・ 千葉県ホームページに掲載の下記情報を参照する。 「イネばか苗病ゼロに御協力願います!!」 (https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/farmer.html)
	イネミズゾウムシ	並	2月越冬量：少(-) 5月上旬被害株率 ：やや多(+)	・ 移植から日数が経過して苗箱処理剤の効果が減衰する等の理由から、移植10日後以降に成虫が多数飛来した時には薬剤防除する。
	イネドロオイムシ	並	5月上旬寄生成虫数：並 5月上旬被害株率 ：やや多(+) 気象予報：降水量並	・ 越冬成虫の本田侵入最盛期(5月中旬ごろ)の成虫数が10株に2頭以上の場合、又は産卵最盛期(5月下旬ごろ)の卵塊数が1株に1卵塊以上の場合には薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	やや多	5月上旬発生ほ場率 : 多 (+) 5月上旬1㎡当たり平均個体数 : 並 5月上旬被害株率 : やや多 (+) 気象予報 : 気温並か高 (+)	<ul style="list-style-type: none"> 本貝が生息するものの現時点で被害の無い水田においても、今後の動向に注意し4葉期に達するまでの浅水管理(4cm以下)や薬剤防除を行う。 千葉県ホームページに掲載の以下チラシを参照する。 「STOP! ジャンボタニシ被害」 (https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r3_zyantani_tirashi.pdf)
	ヒメトビウンカ	並	2月越冬量: 並 5月上旬雑草地すくい取り捕獲成幼虫数: 並	<ul style="list-style-type: none"> イネ縞葉枯ウイルスを媒介する。 発生の多い年には飛来期の6月上中旬頃及び出穂期頃に1~2回薬剤防除する。
	イネクロカメムシ	並	2月越冬量: 並 気象予報 : 気温並か高 (+)	<ul style="list-style-type: none"> ほ場をよく確認し、発生の多い場合には、薬剤防除する。
ス イ カ	つる枯病	並	5月上旬発生量: 並 [発生なし] 気象予報 : 気温並か高 (+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ほ場の排水を良くする。 多湿を防ぐため、トンネルの換気を十分行う。
	アブラムシ類	やや多	5月上旬発生量: やや多 (+) 気象予報 : 気温並か高 (+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤散布は葉裏まで十分かかるよう、丁寧に行う。 繁殖が速く、短期間で高密度となるため、防除適期を逃さず早期防除する。
	ハダニ類	多	5月上旬発生量: 多 (+) 気象予報 : 気温並か高 (+) 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
ナシ	黒星病	やや多	4月下旬発病果率：多（+） 発病葉率：並 [発生なし] 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 罹病した葉や果実は、伝染源となるので見つけ次第除去し、適切に処分する。 令和4年度病害虫発生予報第2号P6「これから注意を要する病害虫」も参照。
	アブラムシ類	並	4月下旬発生量：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖が速く、短期間で高密度となるため、防除適期を逃さず早期防除する。
温州ミカン	そうか病	やや多	4月下旬発生量：多（+） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 防除適期は落弁直後なので、適期に薬剤防除を行う。
	ミカンハダニ	並	4月下旬発生量：少（-） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生の多いほ場（寄生葉率30%以上）では薬剤防除する。
果樹共通	カメムシ類	並	5月サクラ樹払い落とし調査 ：やや少（-） 4月フェロモントラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温並か高（+）	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。

Ⅲ 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：4月中旬～5月上旬、スイカ：5月上旬、果樹：4月下旬、果樹カメムシ類：5月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	いもち病	苗の発病度	0.00	0.00	0.00	2月調査	
		もみ枯細菌病	0.14	0.24	0.23		
		苗立枯病	0.00	0.31	0.02		
	ばか苗病	苗の発病度	1.29	0.52	2.35		
		イネミズゾウムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.06	1.44		0.10
		成虫寄生株率(%)	1.56	1.96	3.38		
	イネゾウムシ	被害株率(%)	10.63	6.63	14.63		
		雑草地すくい取り成虫数	0.44	0.48	0.47		
		成虫寄生株率(%)	0.00	0.10	0.19		
	イネドロオウムシ	被害株率(%)	0.25	0.27	0.25		
		成幼虫蛹寄生株率(%)	0.19	0.12	0.31		
		被害株率(%)	0.31	0.10	0.38		
	スクミリンゴガイ	雑草地すくい取り成虫数	0.21	0.37	0.26		
		発生ほ場率(%)	20.31	9.19	6.25		
		1㎡当たり個体数	0.19	0.18	0.60		
ヒメトビウンカ	被害株率(%)	0.69	0.22	0.42			
	畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	2.23	1.70	0.12			
	雑草地すくい取り成虫数	0.01	0.01	0.00			
イネクロカメムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.06	0.08	0.03	2月調査		
スイカ (山武・印旛)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
		発病株率(%)	0.00	0.08	0.00		
	うどんこ病	成幼虫寄生葉率(%)	1.20	0.60	0.60		
	アブラムシ類	雌成虫寄生葉率(%)	1.80	0.36	1.40		
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.03		
		発病果率(%)	0.91	0.12	0.32		
	赤星病	発病葉率(%)	0.00	0.06	0.00		
		被害葉率(%)	0.03	0.03	0.00		
	ハマキムシ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.41	1.16	0.56		
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.08	0.01	0.00		
	かいよう病	発病度	0.00	0.04	0.00		
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	6.10	5.60		
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	6.75	2.03	0.25		
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.35	0.00		
果樹共通	果樹カメムシ類 (安房)	サクラ樹払い落とし虫数 (1網あたり捕獲成虫数)	0.43	1.37	2.28		

トラップ月間誘殺数（4月）*種類別の単位の違いに注意

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（*）			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	香取、安房	6.0	9.8	62.5	頭/月 千葉は欠調
	ツマグロヨコバイ	〃	0.0	0.3	2.0	
	ニカメイガ	〃	0.0	0.2	0.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	0.0	0.7	6.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	0.0	0.2	2.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	2.0	7.0	
	カメムシ類	〃	0.0	2.9	15.0	
性フェロモン	コナガ	海匝	2.4	2.4	1.3	頭/日
	ハスモンヨトウ	県内全域	0.6	0.9	0.4	
	シロイチモジヨトウ	安房	0.0	0.0	0.0	
	オオタバコガ	県内全域	1.4	0.2	0.3	
	タバコガ	県内全域	0.0	0.0	0.0	
	ナシヒメシンクイ	印旛	1.4	1.1	3.0	
	モモシンクイガ	印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	印旛	1.4	1.1	3.0	
	チャハマキ	印旛	2.0	0.9	1.3	
	チャノコカクモンハマキ	印旛	1.4	0.8	0.3	
	ハマキムシ類	印旛	3.4	1.7	1.6	
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	0.4	0.7	1.8	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	0.1	0.2	
	クサギカメムシ	〃	0.1	0.1	0.0	
	カメムシ類	〃	0.5	0.8	2.1	
	マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)	〃	0.2	0.5	0.2	

○気象予報

5月11日気象庁発表

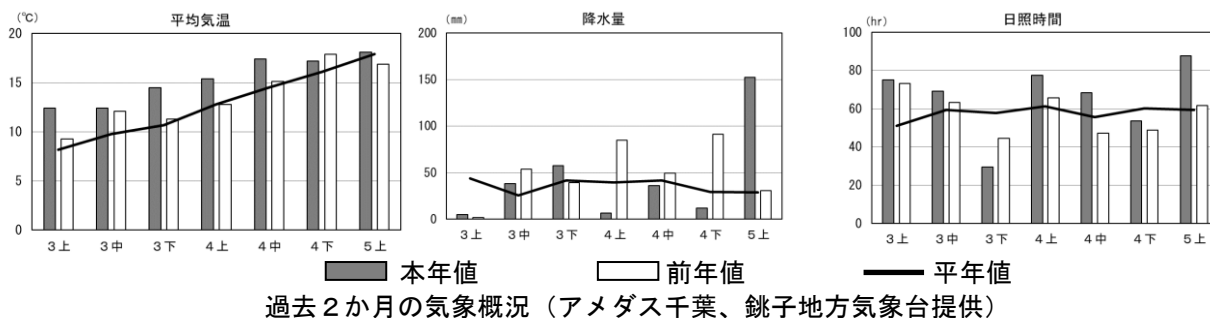
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(5月13日～6月12日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	20.1	18.5	19.7
降水量(mm)	135.2	148.7	172.5
日照時間(hr)	170.1	184.3	176.7

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いきれがよいようにきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は6月14日です。なお、注意報等の

臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和5年6月14日
千葉県農林総合研究センター長

6月から8月は農薬危害防止運動月間です
農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	いもち病 (葉いもち)	並	6月上旬発病株率 : 並〔発生なし〕 気象予報: 気温高 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病を確認次第、薬剤防除する。 常発地では、例年6月中下旬が初発時期であるため、予防防除を行う。
	紋枯病	やや多	6月上旬発生量: 並〔発生なし〕 前年8月下旬発病度: 多 (+) 気象予報: 気温高 (+)	<ul style="list-style-type: none"> 粒剤による薬剤防除は出穂 20 日前ごろに行う。 出穂 15 日前ごろの発病株率が 15% 以上の場合、粉剤、水和剤で穂ばらみ後期までに薬剤防除する。
	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	やや多	6月上旬発生量: やや多 (+)	<ul style="list-style-type: none"> <u>千葉県ホームページに掲載の以下のチラシを参照する。</u> 「STOP! ジャンボタニシ被害」 (https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r3_zyantani_tirashi.pdf)
	イネクロカメムシ	やや多	5月予察灯誘殺数: 多 (+) 6月上旬発生量: やや少 (-) 気象予報: 気温高 (+)	<ul style="list-style-type: none"> 6月下旬～7月上旬が越冬成虫の飛来最盛期であるため、発生が多い場合には薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	ヒメトビウンカ	やや多	5月予察灯誘殺数 ：並[発生なし] 6月上旬20回振りすくい取り 成幼虫数：やや多(+) 気象予報：気温高(+)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縞葉枯病ウイルスを媒介する。 ・ 6月下旬～7月上旬に発生が多い場合は薬剤防除する。
	セジロウンカ	並	5月予察灯誘殺数 ：並[発生なし] 6月上旬発生量 ：並[発生なし] 気象予報：気温高(+)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月上中旬ごろに株あたり10頭以上寄生していた場合は、薬剤防除する。
スイカ	うどんこ病	やや多	6月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：気温高(-) 降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> ・ トンネルの換気を十分に行い、通風を良くする。 ・ 病勢が進展してからの防除は困難であるため、発病ごく初期から薬剤防除する。 ・ 薬剤防除の際は、収穫前使用日数に注意し、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。 ・ <u>令和3年度病害虫発生予報第3号P4「これから注意を要する病害虫」</u>も参照する。
	アブラムシ類	並	6月上旬発生量：並 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤散布は、葉裏にも十分かかるよう、丁寧に行う。 ・ ほ場により発生状況が大きく異なるため、収穫まで日数のあるほ場では、こまめな観察と早期防除に努める。
	ハダニ類	並	6月上旬発生量：並 気象予報：気温高(+) 降水量並	
サトイモ	アブラムシ類	並	6月上旬発生量：並 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤散布は、葉裏にも十分かかるように丁寧に行う。
	ハダニ類	並	6月上旬発生量：少(-) 気象予報：気温高(+) 降水量並	
ナシ	黒星病	並	5月下旬発生量：やや少(-) 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被害葉、被害果は伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・ <u>令和4年度病害虫発生予報第3号P4「これから注意を要する病害虫」</u>も参照する。
	シンクイムシ類	やや多	5月下旬発生量：並[発生なし] 5月フェロモントラップ誘殺数 ：多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加害が見られる場合は、薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
ナシ	ハマキムシ類	並	5月下旬発生量：並 5月フェロモントラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 加害が見られる場合は、薬剤防除する。
	アブラムシ類	並	5月下旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	
温州ミカン	そうか病	やや多	5月下旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生が多い園では、梅雨期にも薬剤防除する。 夏期（6～8月）防除の判断は、寄生葉率30%を目安とする。
	ミカンハダニ	並	5月下旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	
ビワ	灰斑病	多	5月下旬発生量：多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 落葉に付着した病原菌が次の発生源となるため、集めて園外に持ち出し、適切に処分する。
果樹共通	カメムシ類	並	5月下旬発生量：並 [発生なし] 5月予察灯誘殺数：やや少（-） 5月フェロモントラップ誘殺数 ：やや少（-） 気象予報：気温高（+）	<ul style="list-style-type: none"> 防虫ネット（9mm クロスまたは4mm 以下の網目）等により、物理的な防除対策を行う。 寄生が見られる場合は、収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。 カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。園内外をこまめに見回り、発生を確認次第、薬剤防除する。

Ⅲ 参考資料

○ 主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・サツマイモ・サトイモ・スイカ：6月上旬、果樹：5月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	葉いもち発病度	0.00	0.01	0.00	
	ばか苗病	発病株率(%)	0.06	0.07	0.11	
	紋枯病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	イネミズゾウムシ	被害度	8.73	8.36	9.10	
	イネゾウムシ	被害度	1.77	1.80	1.24	
	イネドロオイムシ	被害度	2.16	2.41	1.89	
	スクミリンゴガイ	被害株率(%)	2.57	1.29	1.26	
		1㎡当たり個体数	0.42	0.24	0.44	
		発生ほ場率(%)	20.00	13.48	12.86	
	セジロウンカ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.14	0.00	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.01	0.01	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	1.01	0.48	0.35	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.07	0.01	0.00	
サツマイモ (印旛、香取)	立枯病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	0.00	0.40	0.60	
スイカ (山武、印旛)	つる枯病	発病葉率(%)	0.60	0.18	0.00	
	うどんこ病	発病葉率(%)	3.20	2.92	0.20	
		発病株率(%)	8.40	4.56	0.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	4.80	5.30	10.80	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	2.80	4.72	6.80	
サトイモ (印旛、香取、君津)	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	7.91	10.09	11.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生程度	1.73	4.25	2.27	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.29	1.16	2.41	
	赤星病	発病葉率(%)	0.00	0.12	0.03	
	シンクイムシ類	被害果率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.06	0.06	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.06	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.62	5.79	0.35	
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.01	0.00	
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.40	0.11	0.08	
	かいよう病	発病度	0.00	0.02	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.08	5.50	1.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	1.40	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.60	0.66	0.00	
	カメムシ類	叩き落とし虫数	0.00	2.14	0.40	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	5.50	2.08	0.75	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.25	0.10	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.53	0.00	

トラップ月間誘殺数（5月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考 *
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	5.16	30.44	-	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.00	0.00	-	
	トビイロウンカ	〃	0.00	0.00	-	
	ヒメトビウンカ	〃	0.00	0.08	-	
	フタオビコヤガ	〃	0.97	0.12	-	
	ニカメイガ	〃	11.29	0.44	-	
	イネクロカメムシ	〃	59.35	23.57	-	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	2.26	1.05	-	
	アカスジカスミカメ	〃	17.10	17.90	-	
	ミナミアオカメムシ	〃	0.00	0.00	-	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	0.97	0.97	2.90	頭/月
	クサギカメムシ	〃	0.97	1.16	0.97	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.00	15.48	13.55	
	カメムシ類	〃	1.94	17.61	17.42	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.22	0.45	0.22	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.02	0.11	0.35	
	コナガ	海匝	3.64	6.16	4.70	
	ハスモンヨトウ	県内全域	0.63	1.95	1.06	
	シロイチモジヨトウ	東葛、安房、君津	0.16	0.13	0.11	
	オオタバコガ	県内全域	1.53	0.57	0.61	
	タバコガ	県内全域	0.14	0.15	0.09	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	0.92	0.54	0.82	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.01	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	0.92	0.55	0.82	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.67	0.79	2.04	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.27	1.47	1.95	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.94	2.26	3.99	
	チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	0.95	4.79	
ツヤアオカメムシ		〃	0.04	0.36	0.48	
クサギカメムシ		〃	0.06	0.32	0.35	
カメムシ類		〃	1.05	5.48	7.46	
マルボシヒラタヤドリバエ（天敵）		〃	0.47	0.90	0.53	

* 種類別の単位の違いに注意。月は30日当たりに補正。

○気象予報

6月8日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

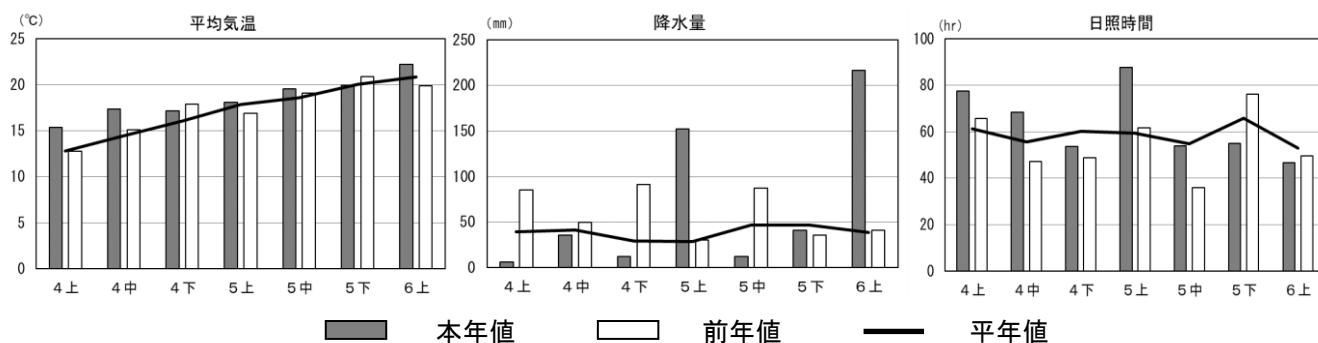
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	30	60
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(6月10日～7月9日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	23.1	21.1	22.6
降水量(mm)	166.1	177.2	229.3
日照時間(hr)	122.0	132.9	129.3



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いきれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は7月19日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和5年7月19日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	いもち病 (穂いもち)	並	7月上旬葉いもち発生量：並 気象予報：気温高(-) 降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 葉いもちの発生しているほ場では、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除する。さらに多発する場合は穂揃期にも薬剤防除する。 令和3年度病害虫発生予報第4号P5「これから注意を要する病害虫」も参照する。
	紋枯病	やや多	7月上旬発生量 ：並[発生なし] 前年8月下旬発生量：多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 穂ばらみ期に発病株率15%以上の場合、薬剤防除する。その後、病勢が抑えられない場合は、穂揃頃に追加防除する。 前年に発生が多かったほ場では特に注意する。
	ごま葉枯病	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生が多い場合は薬剤防除する。
	斑点米カメムシ類	大型のカメムシ類	多	7月上旬本田発生量：多(+) 7月上旬雑草地発生量 ：多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並
カスミカメムシ類 (アカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメ)		並	7月上旬本田発生量：並 7月上旬雑草地発生量 ：やや少(-) 気象予報：気温高 アカヒゲホソミドリカスミカメ(-) アカスジカスミカメ(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> P5「これから注意を要する病害虫」も参照する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	イネクロカメムシ	並	7月上旬発生量：並 6月予察灯誘殺数：並 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 気温の高い日中は株元において薬剤がかかりにくいいため、薬剤防除は朝や夕方に行う。
	セジロウンカ	並	7月上旬発生量：並 6月予察灯誘殺数：並 [発生なし] 気象予報：気温高（+）	・ 7月中旬頃に株当たり 10 頭以上寄生していた場合には薬剤防除する。
	ヒメトビウンカ	多	7月上旬発生量：多（+） 6月予察灯誘殺数：並	・ イネ縞葉枯ウイルスを媒介する。 ・ 縞葉枯病の感染は主に幼穂形成期前の吸汁によるため、幼穂形成期後のヒメトビウンカ防除は縞葉枯病の発生予防効果は低い。
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	7月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 早期発見に努め、多発ほ場では薬剤防除する。
	イモキバガ	並	7月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	
ラッカセイ	白絹病	並	7月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 病株は周囲の表土と共に除去する。 ・ 収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。
	褐斑病	並	7月上旬発生量：並 気象予報：降水量並	・ 多発ほ場では薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	さび病	やや少	7月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（－） 降水量並	・ 発生初期から薬剤防除する。
	ネギアザミウマ	やや少	7月上旬発生量：少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 高温乾燥期に多発しやすいので、今後の天候に注意する。 ・ 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌処理と併せて、即効性が期待できる薬剤の地上部処理などにより、防除する。
	ネギコガ	並	7月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 高温乾燥期に多発しやすい。 ・ 幼虫は、葉内に侵入して食害するので、初期防除に努める。
サトイモ	アブラムシ類	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 薬剤防除は、葉裏にも十分かかるようにいねいに行う。
	ハダニ類	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	6月フェロモントラップ誘殺数： 並 7月上旬発生量 秋冬ネギ：並 [発生なし] サトイモ：並 [発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 ・ 薬剤防除の場合、幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に行う。
	オオタバコガ	多	6月フェロモントラップ誘殺数： 多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 幼虫は見つけ次第捕殺する。 ・ 施設栽培では、開口部を防虫網で被覆することにより成虫の侵入防止を図る。 ・ P7「これから注意を要する病害虫」も参照する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
ナシ	黒星病	並	6月下旬発生量：並 気象予報：気温高（－） 降水量並	・ 被害葉、被害果は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
	シンクイムシ類	やや多	6月下旬発生量：並 [発生なし] 6月フェロモントラップ誘殺数：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 加害が見られる場合は、収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。
	ハマキムシ類	やや多	6月下旬発生量：やや多（＋） 6月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
	ハダニ類	並	6月下旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 増殖が速いので、発生初期から防除する。 ・ 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を助長しないよう、同一系統の剤は年1回の使用とする。
温州ミカン	そうか病	やや多	6月下旬発生量：多（＋） 気象予報：気温高（－） 降水量並	・ 被害葉、被害果は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
	ミカンハダニ	やや少	6月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（－） 降水量並	・ 夏期（6～8月）防除の判断は寄生葉率で30%を目安とする。
果樹共通	カメムシ類	並	6月フェロモントラップ誘殺数：並 6月果樹予察灯誘殺数：やや少（－） 気象予報：気温高（＋）	・ カメムシ類の発生量は地域差があるため、果樹園への飛来状況は地域や園地により異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら薬剤防除する。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

斑点米カメムシ類（特に大型斑点米カメムシ類）

7月上旬の水田周辺の雑草地すくい取り調査において、大型斑点米カメムシ類の平均捕獲数は5.71頭（1地点当たり20回すくい取り（以下同じ）；平年1.50頭）と過去11年中1位であった。うち、クモヘリカメムシは3.69頭（平年0.14頭）、ホソハリカメムシは1.76頭（平年0.96頭）とそれぞれ過去11年中1位であった。

向こう1か月の気象予報では気温は高くなることが予想されるため、斑点米カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動の活発化に注意する必要がある。

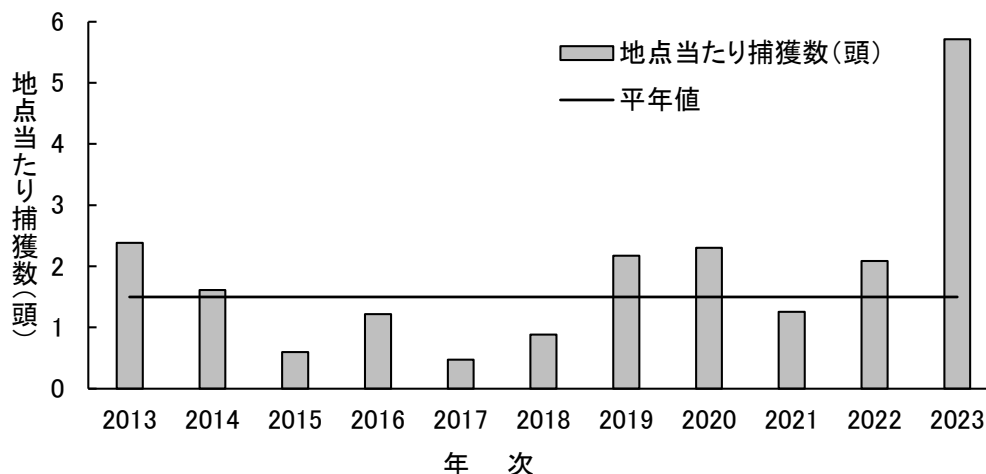


図 雑草地すくい取り調査における大型斑点米カメムシ類の年次別捕獲数(6月下旬～7月上旬)

(1) 防除について

1) 防除適期

多発生した場合は以下の2回防除する。

①穂揃期（出穂期3日後）

成虫の飛来ピークであり、大型斑点米カメムシ類はすぐに産卵するため、迅速に防除する。

②乳熟期（出穂期から15日後頃）

水田内でふ化・生育した幼虫の密度が高いため、防除は幼虫密度の低下を目的に行う。

2) 薬剤防除

表1を参考に本田の薬剤防除を行う。粒剤は水に溶けた成分が水稻に吸収されて効果を示すため、出穂期に湛水散布し、1週間程度湛水状態を保つ。

(2) 留意事項

1) 畦畔の除草時期

雑草防除は出穂期の2週間前までに実施し、予めカメムシの密度を下げておくことが重要である。但し、出穂期の2週間前を過ぎている場合は水田周辺の雑草地や畦畔の草刈りは行わない（斑点米カメムシ類の水田侵入を増やすおそれがあるため）。

2) 出穂時期

周辺より出穂が早いか、反対に特に遅い水田では集中的に加害されやすいので注意する。

表1 斑点米カメムシ類の主な防除薬剤

系統名の後の（）内は作用機構分類コードを示す。

薬剤名	使用時期/同一成分使用回数	10a 当たり使用量
有機リン系（1B）		
エルサン粉剤3DL	収穫7日前まで/2回	3kg
スミチオン乳剤	収穫21日前まで/2回	1,000倍 60~150L
スミチオン粉剤3DL	収穫21日前まで/2回（注）	3~4kg
合成ピレスロイド系（3A）		
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで/3回	3~4kg
トレボンMC	収穫14日前まで/3回	2,000倍 60~150L
ネオニコチノイド系（4A）		
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	収穫7日前まで/3回	2,000倍 60~150L
スタークル/アルバリン粉剤DL	収穫7日前まで/3回	3kg
スタークル/アルバリン粒剤	収穫7日前まで/3回	3kg
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで/3回	4,000倍 60~150L
ダントツ粉剤DL	収穫7日前まで/3回	3~4kg
ダントツ粒剤	収穫7日前まで/3回	3~4kg
フェニルピラゾール系（2B）		
キラップフロアブル	収穫14日前まで/2回	1,000~2,000倍 60~200L
キラップ粉剤DL	収穫14日前まで/2回	3~4kg
キラップ粒剤	収穫14日前まで/2回	3kg

注) スミチオン粉剤3DLの出穂前散布は1回まで

表2 水田畦畔の雑草に使用可能な主な除草剤

除草剤名	種類	同一成分 使用回数 (注)	成分
ラウンドアップマックスロード	非選択性 茎葉処理	3回以内	グリホサートカリウム塩
バスタ液剤		2回以内	グルホシネート
ザクサ液剤		2回以内	グルホシネートPナトリウム塩
カーメックス顆粒水和剤	土壌 処理	1回	DCMU
ダイロンゾル		1回	DCMU

注) グルホシネートとグルホシネートPナトリウム塩は同一成分として数える

オオタバコガ

オオタバコガは、トマトを始めナス、ピーマン、キャベツ、レタス、非結球レタス、ししとうなど多数の作物の果実、花蕾、新芽、茎、葉などに被害を及ぼす害虫である。

農林総合研究センター病害虫防除課では、フェロモントラップによるオオタバコガの発生消長を、印旛、海匝、山武、安房、君津の5地域8地点で調査を行っている。

県下全域での誘殺状況は、4月中旬以降、平年値を上回って推移し、6月においても同様の状況にある(図1参照)。

しかし、各地点の6月の誘殺数を見た場合、誘殺状況は大きく異なっている(図2～9参照)。

現在、誘殺数が少ない地域であっても、急激に発生が多くなることがあり、次世代への発生量にも影響を及ぼすことが考えられることから、発生が認められた場合には、適切に防除することが重要である。

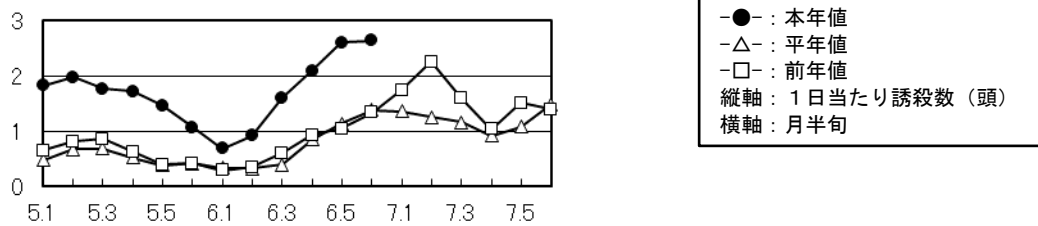


図1 オオタバコガ(平均)

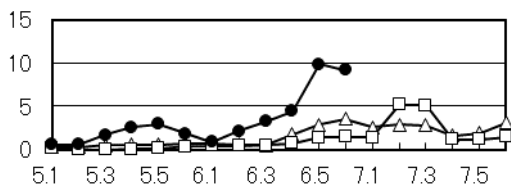


図2 オオタバコガ(銚子市)

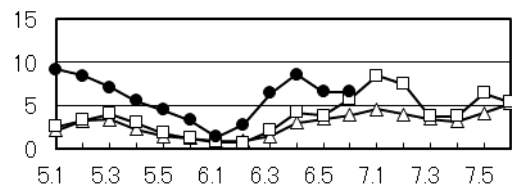


図3 オオタバコガ(木更津市)

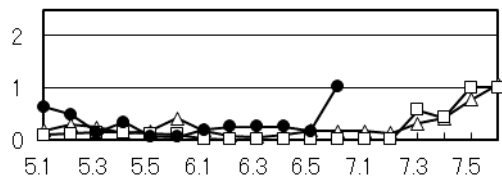


図4 オオタバコガ(富里市)

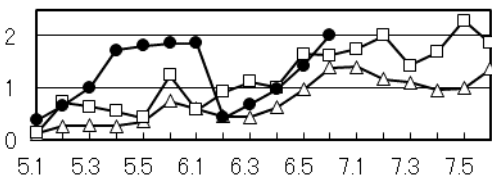


図5 オオタバコガ(旭市)

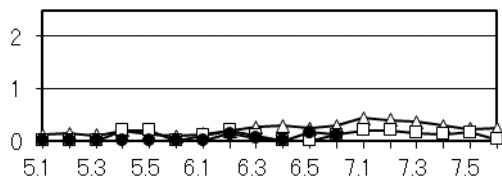


図6 オオタバコガ(横芝光町)

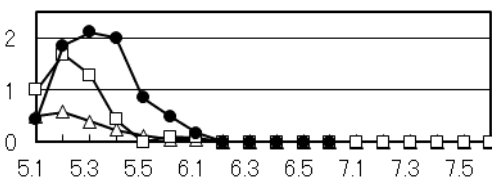


図7 オオタバコガ(山武市)

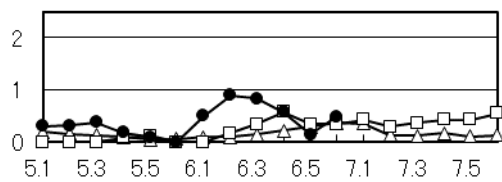


図8 オオタバコガ(南房総市)

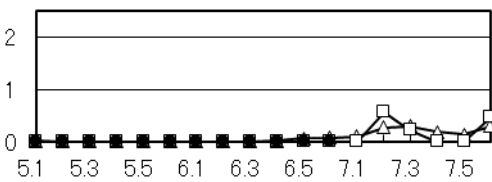


図9 オオタバコガ(鋸南町)

(1) 防除対策

- ① 食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- ② 新芽や花蕾には卵や若齢幼虫がいることが多い。摘心した側枝や蕾はほ場外に持ち出し処分する。
- ③ 防虫網などにより施設内への成虫の飛び込みを防止する。
- ④ 本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。
- ⑤ 蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたほ場を冠水することで、土中の蛹を死滅させる。
- ⑥ 防除剤は下表による害虫防除によるが、中齢幼虫以降になると薬剤の防除効果が著しく低下してしまう。早期発見、早期防除に重点を置く。常発地ではフェロモントラップを設置するなどして発生消長を確認しながら幼虫の防除を行う。

(2) オオタバコガに登録のある防除薬剤

① 化学合成農薬

系統名または薬剤名の後の()内は作用機構分類コードを示す。

薬剤名	トマト	ミニトマト	なす	ピーマン	キャベツ	レタス	非結球レタス	ししとう
カーバメート系(1A)								
ランネート45DF						○		
ジアミド系(28)								
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○
プレバソフロアブル5	○	○	○	○	○	○	○	○
アベルメクチン系、ミルベマイシン系(6)								
アニキ乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○
アフーム乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○
スピノシン系(5)								
スピノエース顆粒水和剤	○	○	○	○		○	○	
ディアナSC	○	○	○	○	○	○	○	
IGR剤								
アタブロン乳剤(15)	○	○	○	○				○
カウンター乳剤(15)	○	○	○	○		○	○	
カスケード乳剤(15)	○	○	○	○	○	○	○	○
ファルコンフロアブル(18)	○		○	○	○	○	○	○
マッチ乳剤(15)	○	○	○	○		○	○	○
マトリックフロアブル(18)	○	○	○	○		○	○	○
その他								
アクセルフロアブル(22B)	○	○	○	○	○	○	○	
コテツフロアブル(13)	○	○	○	○	○	○		○
トルネードエースDF(22A)	○		○	○		○	○	
プレオフロアブル(UN)	○	○	○	○タ	○	○		○タ

タ：タバコガ類での登録

② BT剤

薬剤名	菌株	病害虫名	希釈倍数	野菜類	野菜類(注1)	とうもろこし
エスマルクDF	kurstaki	オオタバコガ	1,000	○		
エコマスターBT	aizawai	オオタバコガ	1,000	○		
クオークフロアブル	aizawai	オオタバコガ	400	○		
サブリーナフロアブル	aizawai	オオタバコガ	500		△	
ジャックポット顆粒水和剤	aizawai kurstaki	オオタバコガ	1,000		▲	
ゼンターリ顆粒水和剤	aizawai	オオタバコガ	1,000		▲	○
チューンアップ顆粒水和剤	kurstaki	オオタバコガ	2,000~3,000	○		
デルフィン顆粒水和剤(注2)	kurstaki	オオタバコガ	1,000	○		○
トローフロアブルCT	kurstaki	オオタバコガ	500~1,000	○		
フローバックDF	aizawai	オオタバコガ	1,000	○		

使用基準は発生初期(収穫前日まで/-)である。

注1 △：はくさい、えごま(葉)を除く。▲：はくさいを除く。

注2 デルフィン顆粒水和剤は野菜類での登録があるが、はくさいで用いる場合は薬害のおそれがあるので注意する。

Ⅲ 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：7月上旬、果樹：6月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(葉いもち)	発病度	1.76	1.32	2.44	
	紋枯病	発病度	0.00	0.02	0.03	
	ごま葉枯病	発病度	0.23	0.62	0.51	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.17	0.67	0.01	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.02	0.03	
	ニカメイガ	被害株率(%)	1.14	0.02	0.00	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害包数	0.07	0.17	0.36	
	セジロウンカ	本田すくい取り捕獲虫数 注1)	0.05	0.10	0.03	
	ヒメトビウンカ	本田すくい取り捕獲虫数	6.02	0.71	0.84	
	ツマグロヨコバイ	本田すくい取り捕獲虫数	0.25	0.53	0.96	
	フタオビコヤガ	本田すくい取り捕獲虫数	0.04	0.19	0.60	
	大型のカメムシ類	本田すくい取り捕獲虫数	2.06	0.25	0.19	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	本田すくい取り捕獲虫数	0.01	0.06	0.04	
	アカスジカスミカメ	本田すくい取り捕獲虫数	0.14	0.15	0.00	
	クモヘリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数 注2)	3.69	0.14	0.37	
	ホソハリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数	1.76	0.96	1.01	
	イネカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数	0.03	0.03	0.03	
	シラホシカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲虫数	0.24	0.34	0.64	
	大型のカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲虫数	5.71	1.50	2.09	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲虫数	2.53	3.08	4.01	
アカスジカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲虫数	12.40	21.54	26.06		
サツマイモ (印旛・香取)	ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.00	0.14	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	0.60	2.14	1.40	
ラッカセイ (千葉・君津)	そうか病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	褐斑病	発病度	4.00	5.05	1.55	
	黒渋病	発病度	0.10	0.01	0.00	
	白絹病	発病株率(%)	0.00	0.06	0.00	
サトイモ (印旛、香取、君津)	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.10	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	21.2	22.5	28.5	
	ハダニ類	雌成虫寄生程度	15.7	16.2	17.7	
秋冬ネギ (長生・山武)	黒斑病	発病度	0.14	0.60	0.14	
	さび病	発病度	0.00	1.58	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.13	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	5.57	13.59	14.14	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.30	0.00	
ネギハモグリバエ	被害度	0.00	1.44	0.57		
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	1.09	1.78	2.62	
	黒星病	発病果率(%)	0.50	0.97	2.03	
	赤星病	発病葉率(%)	0.06	0.26	0.00	
	シンクイムシ類	被害果率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害果率(%)	0.03	0.00	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.11	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	3.53	4.44	3.91	
ニセナシサビダニ	被害新梢率(%)	2.21	4.71	0.18		
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.40	0.10	0.16	
		葉の発病度	1.04	0.10	0.16	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.06	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	7.00	16.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	0.30	0.00	
ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.32	0.00		

注1) 調査ほ場で捕虫網を20回振り、すくい取った成幼虫の平均値

注2) 調査ほ場周辺の畦畔や路肩などの雑草地で捕虫網を20回振り、すくい取った成幼虫の平均値

トラップ月間誘殺数（6月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備 考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	9.67	1.91	0.00	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.00	0.30	0.00	
	トビイロウンカ	〃	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	〃	1.67	1.34	0.00	
	ツマグロヨコバイ	〃	7.00	132.91	1256.67	
	フタオビコヤガ	〃	2.00	1.81	2.33	
	ニカメイガ	〃	2.00	0.47	0.67	
	コブノメイガ	〃	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	〃	4.00	4.57	4.33	
	クモヘリカメムシ	〃	0.00	0.10	0.00	
	ホソハリカメムシ	〃	0.00	0.20	1.00	
	シラホシカメムシ類	〃	0.00	-	-	
	イネカメムシ	〃	2.33	0.47	2.67	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	12.33	13.91	10.00	
	アカスジカスミカメ	〃	14.67	26.62	9.67	
ミナミアオカメムシ	〃	0.00	0.17	0.67		
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	1.00	2.63	9.00	頭/月
	クサギカメムシ	〃	0.00	2.90	10.00	
	ツヤアオカメムシ	〃	3.00	7.71	22.00	
	カメムシ類	〃	4.00	13.24	41.00	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	6.22	5.84	6.59	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.27	0.31	0.35	
	コナガ	海匠	1.90	6.29	2.27	
	ハスモンヨトウ	県内全域	3.37	3.79	1.80	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.44	1.21	0.27	
	オオタバコガ	県内全域	1.75	0.73	0.76	
	タバコガ	県内全域	0.47	0.51	0.18	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.98	1.12	1.97	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.04	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.98	1.16	1.97	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.33	0.40	0.90	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.80	1.65	0.66	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	2.13	2.06	1.56	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	2.57	9.20	15.33	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.04	0.16	0.21	
	クサギカメムシ	〃	0.15	0.52	0.70	
	カメムシ類	〃	2.77	9.87	16.24	
	マルボシヒラタヤドリノエ (天敵)	〃	1.05	1.39	0.97	

注) 種類別の単位の違いに注意

○気象予報

7月13日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

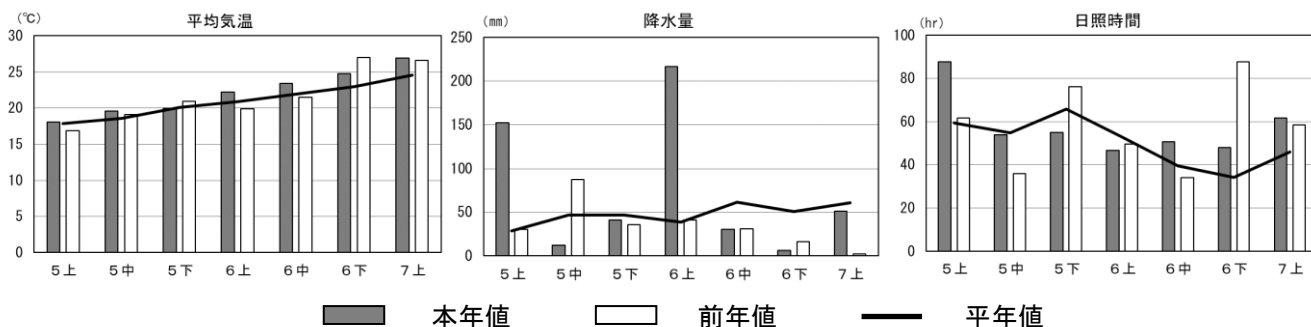
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	30	60
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(7月15日～8月14日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	26.3	24.4	25.9
降水量(mm)	112.4	101.9	136.0
日照時間(hr)	181.7	205.8	206.3



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は8月18日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

令和5年8月18日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや少	7月下旬上位2葉発病葉率 : やや少 (-) 気象予報: 気温高 (-) 降水量並か多 (+)	
	紋枯病	並	7月下旬発生量: 並 気象予報: 気温高 (+) 降水量並か多 (+)	
	ごま葉枯病	並	7月下旬発生量: 並 気象予報: 気温高 (+)	・ 発生が多い場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
	斑点米カメムシ類 ^{注1)}	やや多	7月下旬発生量: やや多 (+) 気象予報: 気温高 (+) 予察灯誘殺数 クモヘリカメムシ: 多 (+) ホソハリカメムシ: 多 (+)	・ 多発ほ場では、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 ・ <u>令和5年度病害虫発生予察注意報第1号</u> も参照する。
	カスミカメムシ類 ^{注2)}	やや少	7月下旬発生量: やや少 (-) 気象予報: 気温高 アカヒゲホソミドリカスミカメ (-) アカスジカスミカメ (+)	

注1) クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、イネカメムシ、シラホシカメムシ類及びミナミアオカメムシ

2) アカヒゲホソミドリカスミカメ及びアカスジカスミカメ

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
サツマイモ	ナカジロシタバ	やや多	8月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、多発ほ場では収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
	イモキバガ (イモコガ)	並	8月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	
ラッカセイ	褐斑病	並	8月上旬発生量：並 気象予報：気温高（－） 降水量並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
秋冬ネギ	白絹病	並	8月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	ネギアザミウマ	並	8月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌処理と併せて、即効性が期待できる薬剤の地上部処理などにより、防除する。 ネギハモグリバエについては、<u>令和4年度病害虫発生予報第2号P4「これから注意を要する病害虫」</u>も参照する。
	ネギハモグリバエ	並	8月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	
	シロイチモジヨトウ	多	8月上旬発生量：多（＋） 7月フェロモントラップ誘殺数：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 産卵は卵塊で葉に行う。幼虫が2齢になると、葉に穴を空け葉内に潜り込んで食害する。薬剤防除を実施する場合、防除適期が非常に短いので、ほ場での発生をよく観察し、幼虫のふ化に合わせて薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
夏秋トマト	黄化葉巻病	並	7月下旬発生量 : 並 [発生なし]	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等でコナジラミ類の発生を的確に把握し、初期から薬剤防除する。 タバココナジラミは黄化葉巻病を、また両種は黄化病を媒介するので、これらの発病にも注意し、発病株は抜き取ってハウス外に持ち出し、適切に処分する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。
	オンシツコナジラミ	やや多	7月下旬発生量 : やや多 (+) 気象予報 : 気温高 (-) 降水量並か多 (-)	
	タバココナジラミ	やや多	7月下旬発生量 : やや多 (+) 気象予報 : 気温高 (-) 降水量並か多 (-)	
サトイモ	アブラムシ類	並	8月上旬発生量 : やや少 (-) 気象予報 : 気温高 (+)	<ul style="list-style-type: none"> 葉裏に発生が多いので、薬剤散布は、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。
	ハダニ類	やや多	8月上旬発生量 : 多 (+) 気象予報 : 気温高 (+) 降水量並か多 (-)	
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	8月上旬発生量 サツマイモ : 並 [発生なし] 夏秋トマト : 並 [発生なし] 秋冬ネギ : 並 [発生なし] サトイモ : 並 [発生なし] 7月フェロモントラップ誘殺数 : 並 気象予報 : 気温高 (+) 降水量並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
ナシ	シンクイムシ類	やや多	7月下旬被害果率 : 並[発生なし] 7月フェロモントラップ誘殺数 : 多(+) 気象予報: 気温高(+)	<ul style="list-style-type: none"> 収穫時期を迎えているので、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。
	ハマキムシ類	並	7月下旬 被害葉率: 並[発生なし] 被害果率: 並[発生なし] 7月フェロモントラップ誘殺数 : 並 気象予報: 気温高(+)	
	ハダニ類	並	7月下旬発生量: 並 気象予報: 気温高(+) 降水量並か多(-)	
温州ミカン	ミカンハダニ	やや多	7月下旬発生量: 多(+) 気象予報: 気温高(-) 降水量並か多(-)	<ul style="list-style-type: none"> 8月以降の発生は果実にも寄生し、外観品質を損なうので園内を見回り発生に注意する。
果樹共通	カメムシ類	並	7月下旬発生量 ナシ : 多(+) カンキツ: 並[発生なし] 7月予察灯誘殺数 : 並 7月フェロモントラップ誘殺数 : 並 気象予報: 気温高(+)	<ul style="list-style-type: none"> 多目的防災網(9mmクロス)や防虫網(4mm目)などで園全体を被覆する。 カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、薬剤防除する。 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。

II 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稲・夏秋トマト・果樹：7月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：8月上旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(穂いもち)	発病穂率(%)	0.00	0.03	0.08	
	紋枯病	発病度	0.67	1.14	1.80	
	縞葉枯病	発病株率(%)	1.26	0.69	2.23	
	ごま葉枯病	発病度	1.31	1.53	1.04	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.47	0.00	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.01	0.03	
	ニカメイガ	被害株率(%)	0.17	0.06	0.40	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害包数	0.00	0.01	0.04	
	コブノメイガ	上位2葉被害株率(%)	0.00	0.03	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.06	3.71	0.57	
	トビイロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.02	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	64.80	27.88	48.09	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	19.54	24.95	35.14	
	クモヘリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	1.46	0.76	0.36	
	ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.13	0.19	0.16	
	イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.53	0.36	1.17	
	シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.07	0.05	0.10	
	大型のカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	2.19	1.38	1.90	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.04	0.09	0.03	
アカスジカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.60	1.12	1.29		
ミナミアオカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.03	0.12		
サツマイモ (印旛、香取)	ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.20	0.38	0.00	
	イモキバガ	寄生幼虫数	0.20	0.76	0.80	
	ハスモンヨトウ	寄生幼虫数	0.00	0.00	0.00	
ラッカセイ (千葉、君津)	そうか病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	褐斑病	発病度	9.60	11.47	4.95	
	黒渋病	発病度	0.30	0.09	0.00	
	白絹病	発病株率(%)	0.30	0.60	0.00	
秋冬ネギ (長生、山武)	黒斑病	発病度	0.00	1.61	0.00	
	さび病	発病度	0.00	0.18	0.00	
	白絹病	発病株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	18.80	23.72	33.00	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	0.80	0.00	0.00	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.25	0.44	
	ネギハモグリバエ	被害度	0.70	3.06	3.11	
夏秋トマト(印旛)	黄化葉巻病	発病株率(%)	0.00	0.24	2.20	
	タバコガ類	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	2.40	2.20	13.60	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	3.20	0.42	3.20	
サトイモ (印旛、香取、君津)	汚斑病	発病葉率(%)	0.73	1.50	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	10.00	15.24	17.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.08	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生程度	37.27	12.88	22.55	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	1.03	1.65	1.94	サビ症状
	シンクイムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.01	0.00	
	ハマキムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.01	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率 (%)	0.18	0.39	0.03	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	1.44	1.74	2.62	
	ニセナシサビダニ	成若虫被害新梢率 (%)	0.00	0.39	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.21	0.05	0.03	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.28	0.38	0.04	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.02	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	24.40	9.16	24.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.44	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	1.00	0.34	0.00	

トラップ月間誘殺数 (7月) *種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	34.1	110.8	156.4	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.3	1.4	0.3	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.2	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	3.0	7.5	4.7	
	ツマグロヨコバイ	〃	624.0	467.7	2,661.8	
	フタオビコヤガ	〃	9.4	28.1	16.1	
	ニカメイガ	〃	37.3	4.5	22.7	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	5.3	6.1	12.5	
	クモヘリカメムシ	〃	8.8	1.8	4.3	
	ホソハリカメムシ	〃	5.0	1.1	2.0	
	シラホシカメムシ類	〃	0.0	-	-	
	イネカメムシ	〃	28.8	26.3	81.1	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	57.0	42.8	14.1	
	アカスジカスミカメ	〃	130.4	121.0	55.2	
ミナミアオカメムシ	〃	2.0	2.2	2.3		
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	10.6	14.5	49.4	頭/月
	クサギカメムシ	〃	8.7	11.1	30.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	1.0	6.7	9.7	

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	3.4	4.9	4.8	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	12.7	17.0	20.1	
	コナガ	海匠	0.3	1.6	1.3	
	ハスモンヨトウ	県内全域	6.2	6.1	4.4	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	1.5	0.4	1.0	
	オオタバコガ	県内全域	2.6	1.2	1.6	
	タバコガ	県内全域	1.1	0.5	0.5	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	2.8	1.2	1.5	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	2.8	1.2	1.5	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.5	0.5	0.5	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.1	1.1	0.4	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.6	1.6	0.9	
チャバネアオ カメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	1.0	25.2	65.1	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	0.1	0.2	
	クサギカメムシ	〃	0.1	0.3	0.7	
	カメムシ類	〃	1.1	25.6	66.0	
	マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)	〃	0.4	0.3	0.1	

○気象予報

8月10日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

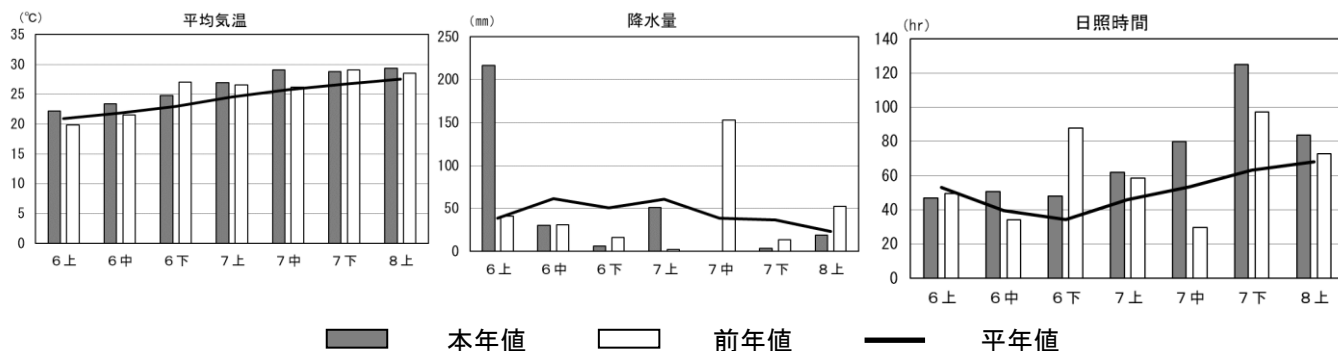
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	20	40	40
日照時間	30	40	30

出典：気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html)

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(8月12日～9月11日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	26.4	25.2	26.1
降水量(mm)	160.6	132.1	148.7
日照時間(hr)	172.2	202.9	200.5



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いきれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は9月13日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和5年9月13日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の（+）は多発要因、（-）は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
サツマイモ	ナカジロシタバ	並	9月上旬発生量：並 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 早期発見に努め、多発ほ場では薬剤防除する。
	イモキバガ	やや少	9月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	
秋冬ネギ	黒斑病	やや少	9月上旬発生量：少（-） 気象予報：降水量並	・ 肥料切れしないようにする。
	ネギアザミウマ	やや少	9月上旬発生量 被害度：少（-） 寄生株率：少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ 多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌処理と併せて、即効性が期待できる薬剤の地上部処理などにより、防除する。
	ネギハモグリバエ	やや多	9月上旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量並	・ ネギハモグリバエについては、 <u>令和4年度病害虫発生予報第2号P4「これから注意を要する病害虫」</u> も参照する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
夏秋トマト	すすかび病	並	8月下旬発生量：並 気象予報：降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 施設の換気を十分に行う。 発生初期から薬剤防除する。
	アザミウマ類	やや少	8月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	黄化葉巻病	多	8月下旬発生量 黄化葉巻病：多（＋） タバココナジラミ：多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、初期から薬剤防除する。
	タバココナジラミ	多	8月下旬発生量：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> タバココナジラミは黄化葉巻病を、また両種は黄化病を媒介するので、これらの発病にも注意し、発病株は抜き取ってハウス外に持ち出し、適切に処分する。
	オンシツコナジラミ	やや多	8月下旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 黄化葉巻病は、令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。
温州ミカン	ミカンハダニ	やや多	8月下旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 秋ダニに注意する。寄生葉率が20%以上の場合に薬剤防除する。
	カメムシ類	やや多	8月下旬発生量 温州ミカン：並〔発生なし〕 8月予察灯誘殺数 ：多（＋） 8月フェロモントラップ誘殺数 ：やや少（－）	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、薬剤防除する。 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
野菜・花き共通	コナガ	やや少	8月フェロモントラップ誘殺数 ：少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 育苗中から防除を徹底する。 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、発生初期に防除を行うよう心がける。 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避け、数系統でのローテーション散布を行う。
	ハスモンヨトウ	並	8月フェロモントラップ誘殺数 ：並 8月下旬発生量 夏秋トマト：並〔発生なし〕 9月上旬発生量 サツマイモ：並〔発生なし〕 秋冬ネギ：並〔発生なし〕 サトイモ：やや多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。 幼虫が大きくなると薬剤の効果が低下するので、幼虫が分散する前の若齢期に薬剤防除する。
	シロイチモジヨトウ	多	8月フェロモントラップ誘殺数 ：多（＋） 9月上旬発生量 秋冬ネギ：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	
	タバコガ類	多	8月フェロモントラップ誘殺数 オオタバコガ：多（＋） タバコガ：多（＋） 8月下旬発生量 夏秋トマト：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 施設栽培では、開口部を防虫網で被覆することにより成虫の侵入防止を図る。 幼虫は見つけ次第捕殺する。 薬剤防除は若齢幼虫期に行う。

Ⅱ その他の情報

【ビワを加害するチャバネアオカメムシの発生について～来年は多発生が予想されます！～】

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の越冬後成虫による果実被害は、5月下旬から6月にかけて収穫時期となるビワで問題となる。特にチャバネアオカメムシは発生量の年次変動が激しく、多発生する年には甚大な被害を及ぼす。

このため、前年に越冬後成虫の発生量を予測することが、二重袋^(注1)の手配など、早期に防除手段を選択するための産地情報として重要である。

チャバネアオカメムシ早期発生予測モデル^(注2)を用いて、2024年4～7月までの南房総地域におけるチャバネアオカメムシの誘殺数を予測した結果、多発生の予想となった（図）。

このことから、普段果樹カメムシ類の被害がないほ場でも被害が発生する恐れがある。そのため、飛来が始まる4月下旬以降に園内外をよく見回り、各ほ場での発生に注意する。また、今後発表される発生予察情報にも留意する。

注1：二重袋は果実をパラフィン紙で筒状に覆い、さらに外側を慣行袋で包むことで、果樹カメムシ類が刺す外側の袋と果面の間に空間が確保され、吸汁を抑制する効果がある。

注2：本予測モデルは南房総地域のスギ雄花生産量（千葉県農林総合研究センター森林研究所による）と果樹カメムシ類の集合フェロモントラップ誘殺数を用いて次年度の越冬成虫数を予測する式で、千葉県農林総合研究センター（暖地園芸研究所）が開発した（詳細は <https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/h27.html> を参照）。

予測モデルによる南房総地域におけるチャバネアオカメムシ越冬後予想発生量（4～7月）は、トラップ当たりの誘殺数が1～100頭未満の場合は少発生、100～1,000頭未満の場合は中程度の発生、1,000頭以上では多発生と予想される。

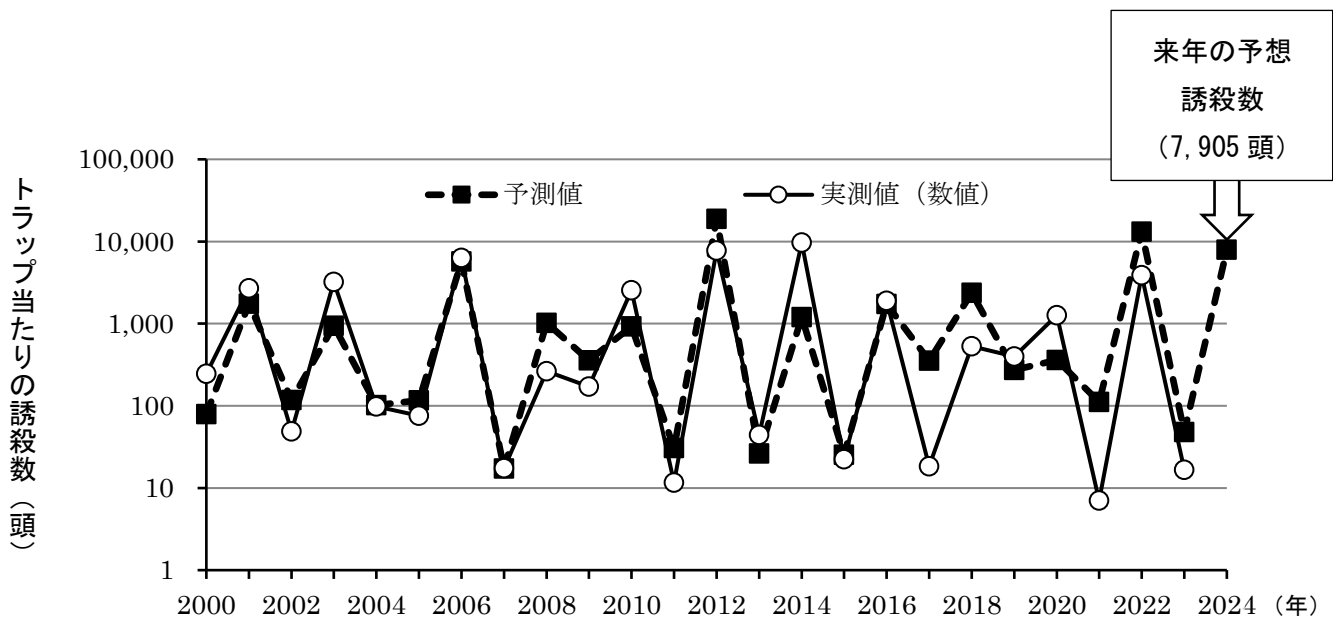


図 チャバネアオカメムシフェロモントラップ予測誘殺頭数及び実測誘殺頭数の年次変動

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・果樹・夏秋トマト：8月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：9月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(穂いもち)	発病穂率(%)	0.02	0.10	0.02	
	紋枯病	発病度	2.00	2.45	4.28	
	縞葉枯病	発病株率(%)	1.39	0.74	2.00	
	ごま葉枯病	発病株率(%)	11.94	12.25	8.06	
	稲こうじ病	発病株率(%)	0.06	0.33	0.06	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.13	0.34	0.04	
	ニカメイガ	被害株率(%)	0.23	0.03	0.12	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害苞数	0.00	0.00	0.00	
	コブノメイガ	上位2葉被害株率(%)	0.00	0.10	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.04	2.69	0.59	
	トビロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	51.39	28.17	30.96	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	146.87	91.88	181.84	
	クモヘリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.68	0.91	0.32	
	ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.03	0.23	0.22	
	イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.23	0.22	0.26	
	シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.16	0.04	0.13	
	ミナミアオカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.02	0.03	
	大型斑点米カメムシ類	捕獲ほ場率(%)	40.58	33.09	33.82	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.03	0.06	0.01	
アカスジカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.35	0.55	0.43		
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ	100葉当たり寄生幼虫数	0.00	0.08	0.00	
	ナカジロシタバ	100葉当たり寄生幼虫数	0.40	0.95	2.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	2.40	7.21	10.00	
		100葉当たり寄生幼虫数	0.00	1.27	3.20	
ラッカセイ (千葉、君津)	そうか病	発病度	0.00	0.01	0.00	
	褐斑病	発病度	13.40	26.89	11.35	
	黒渋病	発病度	0.10	0.46	0.00	
	白絹病	発病株率(%)	2.10	2.91	2.20	
サトイモ (印旛、香取、君津)	汚斑病	発病葉率(%)	12.80	8.50	10.55	
	アブラムシ類	成幼虫寄生程度	5.70	12.62	12.95	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率	6.00	3.83	3.64	
	ハダニ類	雌成虫寄生程度	3.00	9.65	2.15	
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	0.00	2.32	0.90	
	さび病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	12.70	28.16	27.30	
		成幼虫寄生株率(%)	11.60	41.82	26.40	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.08	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	3.20	0.08	0.40	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.80	0.16	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	8.80	6.79	4.90	
夏秋トマト (印旛、山武)	灰色かび病	発病株率(%)	1.00	0.08	0.00	
		発病果率(%)	0.00	0.00	0.00	
		果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	すすかび病	発病株率(%)	9.50	8.50	3.11	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	4.13	1.11	1.78	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	タバコガ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.40	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	15.50	8.04	31.56	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	16.00	3.22	14.22	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	1.23	7.11	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	6.73	1.33	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率 (%)	0.26	0.77	0.71	
	ハマキムシ類	被害葉率 (%)	0.00	0.06	0.03	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率 (%)	0.29	2.50	1.06	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.06	0.40	0.15	
	吸ガ類	被害果率 (%)	0.09	0.09	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.73	0.11	0.28	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.48	0.15	0.08	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.13	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	0.60	3.17	21.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.60	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.39	0.00	

トラップ月間誘殺数 (8月) * 種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	0.6	18.3	13.4	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	3.7	2.9	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.2	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	14.2	14.6	4.3	
	ツマグロヨコバイ	〃	214.8	645.6	682.9	
	フタオビコヤガ	〃	14.5	29.2	11.6	
	ニカメイガ	〃	44.5	3.7	8.6	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	70.6	78.3	32.1	
	クモヘリカメムシ	〃	46.5	19.7	9.1	
	ホソハリカメムシ	〃	2.9	1.7	3.9	
	シラホシカメムシ類	〃	0.0	-	-	
	イネカメムシ	〃	47.4	51.4	79.1	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	37.1	27.9	4.6	
	アカスジカスミカメ	〃	158.7	138.1	65.0	
	ミナミアオカメムシ	〃	8.7	34.7	3.9	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	24.2	16.7	11.1	頭/月
	クサギカメムシ	〃	56.1	20.4	13.3	
	ツヤアオカメムシ	〃	13.5	2.4	1.1	
	カメムシ類	〃	93.9	39.5	25.6	

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	1.68	2.20	1.48	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	5.32	16.98	11.92	
	コナガ	海匝	0.05	0.30	0.20	
	ハスモンヨトウ	県内全域	10.82	12.23	11.54	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	3.12	1.31	3.05	
	オオタバコガ	県内全域	4.72	1.98	3.41	
	タバコガ	県内全域	2.00	0.71	0.87	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.65	1.25	1.42	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.01	0.00	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.65	1.25	1.42	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.01	0.11	0.06	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.35	0.60	0.22	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	0.36	0.71	0.28	
	チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	0.56	6.01	
ツヤアオカメムシ		県内全域	0.01	0.05	0.07	
クサギカメムシ		県内全域	0.01	0.07	0.11	
カメムシ類		県内全域	0.58	6.13	18.87	
マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)		県内全域	0.02	0.11	0.19	

○気象予報

9月7日気象庁発表

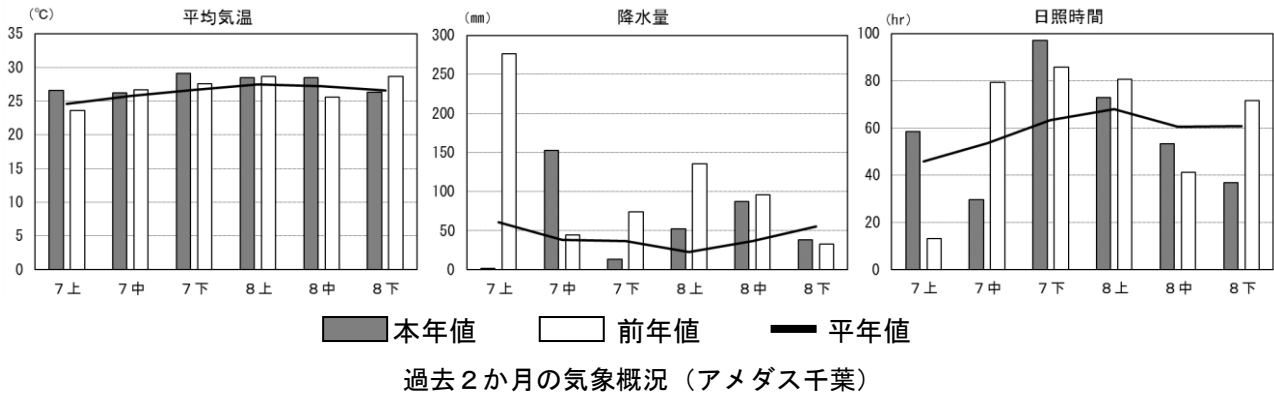
向こう1か月間の各気象要素の平年値

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%) (9月9日~10月8日)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	22.4	22.3	22.4
降水量(mm)	228.1	261.2	245.7
日照時間(hr)	125.3	144.2	139.1

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・次回の発行予定は10月18日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和5年10月18日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
夏 秋 ト マ ト	灰色かび病	並	9月下旬発生量 : 並〔発生なし〕 気象予報: 降水量少(-) 日照時間多(-)	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。 発病果、発病葉は早めに摘除し、施設外に持ち出し適切に処分する。
	すすかび病	やや少	9月下旬発生量: やや少(-) 気象予報: 降水量少(-) 日照時間多(-)	<ul style="list-style-type: none"> 施設の換気を十分に行う。 発生初期から薬剤防除する。
	黄化葉巻病	やや多	9月下旬発生量 黄化葉巻病: やや多(+) タバココナジラミ : やや多(+)	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等でコナジラミ類の発生を的確に把握し、発生初期から薬剤防除する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。
	タバココナジラミ	やや多	9月下旬発生量 タバココナジラミ : やや多(+) オンシツコナジラミ : やや多(+) 黄色粘着トラップ誘殺数 コナジラミ類: 多(+) 気象予報: 気温高(+) 降水量少(+)	<ul style="list-style-type: none"> タバココナジラミは黄化葉巻病を、また両種は黄化病を媒介するので、これらの発病にも注意し、発病株は抜き取ってハウス外に持ち出し、適切に処分する。 栽培終了時にはハウス内を除草、トマトを抜根した状態でハウスを密閉し、完全に枯死させて本虫を死滅させる。 黄化葉巻病は、<u>令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」</u>も参照する。
	オンシツコナジラミ	やや多		
	アザミウマ類	少	9月下旬発生量: 少(-) 黄色粘着トラップ誘殺数 : やや少(-) 気象予報: 気温高(+)	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 キ ャ ベ ツ	黒腐病	並	今春発生量：並 [発生なし] 10月上旬発生量 ：並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量少（-）	<ul style="list-style-type: none"> 結球始めころから薬剤防除する。 風雨で傷を受けないよう管理に注意し、風雨後は速やかに薬剤防除する。
	黒斑病	少	10月上旬発生量：少（-） 気象予報：降水量少（-）	<ul style="list-style-type: none"> 肥料切れしないようにする。 発生初期から薬剤防除する。
秋 冬 ネ ギ	さび病	やや少	10月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：降水量少（-）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	べと病	やや少	10月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（-） 降水量少（-） 日照時間多（-）	<ul style="list-style-type: none"> 気温が15℃前後の多湿条件で発生しやすい。発病してからの薬剤散布では効果が劣るので、降雨や霧の発生が予想される時などには、予防散布を行う。 「ねぎべと病なび」も参考に予防散布を行う。なお、「ねぎべと病なび」の使用にあたっては担い手支援課への申請が必要である。
	ネギアザミウマ	やや少	10月上旬発生量 被害度：少（-） 寄生株率：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量少（+）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
イ チ ゴ	うどんこ病	やや少	10月上旬発生量 ：やや少（-） 気象予報：日照時間多（-）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	ハダニ類	並	10月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量少（+）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
温 州 ミ カ ン	ミカンハダニ	やや多	9月下旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量少（+）	<ul style="list-style-type: none"> 寄生葉率が20%以上の場合に薬剤防除する。
	カメムシ類	多	9月下旬叩き落とし虫数 ：やや多（+） 9月果樹予察灯誘殺数 ：やや多（+） 9月フェロモントラップ誘殺数 ：やや多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量少（+）	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
ビ ワ	灰斑病	やや多	9月下旬発生量：多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量少（-）	<ul style="list-style-type: none"> 伝染源は旧葉の病斑であるから、落葉は集めて園外で処分する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
カーネーション	アザミウマ類	やや多	9月下旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量少（+）	・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	並	9月下旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量少（+）	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
野菜・花き共通	コナガ	並	10月上旬発生量 冬キャベツ：並 [発生なし] 9月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温高（+） 降水量少（+）	・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハスモンヨトウ	並	9月下旬発生量 夏秋トマト：並 [発生なし] カーネーション：並 [発生なし] 10月上旬発生量 イチゴ：並 秋冬ネギ：並 [発生なし] 9月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温高（+） 降水量少（+）	・ 中齢期以降の幼虫は薬剤の防除効果が著しく低下するため、早期発見、早期防除に努める。
	シロイチモジヨトウ	多	10月上旬発生量 秋冬ネギ：多（+） カーネーション：並 [発生なし] 9月フェロモントラップ誘殺数：多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量少（+）	
	オオタバコガ	多	9月下旬発生量 カーネーション：やや多（+） 9月フェロモントラップ誘殺数：多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量少（+）	

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（イネ：8月中下旬、果樹・花き：9月下旬、サツマイモ・野菜：9月下旬～10月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (千葉、東葛飾、印旛、香取、海匝、山武、長生、夷隅)	斑点米	発生粒率(%)	0.23	0.27	0.27	1.7mmで篩掛けした玄米5000粒で調査
	黒点米(黒点症状米を含む)	発生粒率(%)	0.08	0.03	0.04	
	その他着色粒	発生粒率(%)	0.08	0.21	0.09	
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ	100葉あたり寄生幼虫数	1.75	0.70	1.60	
	ナカジロシタバ	100葉あたり寄生幼虫数	0.00	0.48	0.80	
	イモキバガ	被害葉率(%)	5.25	1.28	1.60	
夏秋トマト (山武、印旛)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	2.33	8.89	
		発病果率(%)	0.00	0.03	0.00	
		果実発病度	0.00	0.40	0.00	
	すすかび病	発病株率(%)	15.11	39.50	23.56	
		黄化葉巻病	発病株率(%)	6.11	2.71	6.33
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	28.44	16.03	43.11	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	15.11	7.68	32.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	2.64	8.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	8.68	0.89	
コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	1609.13	263.45	1171.19		
アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	2.54	34.09	2.66		
冬キャベツ (海匝)	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.25	0.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.00	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.10	0.00	
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病	発病度	0.00	5.31	1.30	
	さび病	発病度	0.00	0.03	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.40	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	9.10	23.28	29.40	
		成幼虫寄生株率(%)	12.80	32.55	11.60	
		ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.32	0.00
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	16.40	0.73	1.20	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.80	0.30	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	3.50	11.70	15.00	
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病	発病株率(%)	0.00	1.70	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.25	2.32	0.71	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	1.25	1.60	2.59	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率(%)	2.00	6.94	0.94	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.21	0.47	0.12	
	炭疽病	発病新梢率(%)	0.06	0.13	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.00	0.03	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.09	0.96	0.47	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.21	0.19	0.03	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.08	0.15	0.04	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.93	0.08	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生果率(%)	0.00	0.02	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	4.80	2.42	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.20	1.66	0.20	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	1.14	0.40	
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.04	0.00	
	叩き落とし虫数	2.00	0.80	0.00		
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	5.25	1.18	1.75	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.63	0.25	
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率(%)	0.00	0.72	0.00	
	立枯病	発病株率(%)	0.00	0.40	0.00	
	アザミウマ類	被害株率(%)	0.60	17.73	0.00	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.16	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.48	0.00	
	ヨトウムシ類	被害株率(%)	0.00	4.29	5.60	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率(%)	0.00	6.43	0.00	
オオタバコガ	幼虫寄生株率(%)	0.20	0.32	0.00		

トラップ月間誘殺数（9月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	0.0	0.4	0.7	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	2.5	0.7	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.5	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	1.1	1.8	1.0	
	ツマグロヨコバイ	〃	197.8	407.9	643.7	
	フタオビコヤガ	〃	1.0	1.2	0.3	
	ニカメイガ	〃	13.3	0.8	3.7	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	28.9	34.3	15.0	
	クモヘリカメムシ	〃	11.7	1.6	1.0	
	ホソハリカメムシ	〃	0.4	0.3	0.3	
	シラホシカメムシ類	〃	0.0	-	-	
	イネカメムシ	〃	4.3	5.5	12.7	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	4.3	2.5	0.7	
	アカスジカスミカメ	〃	57.5	27.6	10.7	
ミナミアオカメムシ	〃	4.3	12.3	3.0		
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	〃	22.0	13.1	3.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	7.0	7.1	3.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	6.0	14.7	0.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	1.0	3.4	3.4	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.0	1.0	0.6	
	コナガ	海匝、安房	0.5	0.5	0.6	
	ハスモンヨトウ	県内全域	26.6	27.1	14.7	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	6.3	2.0	2.9	
	オオタバコガ	県内全域	6.3	3.4	6.0	
	タバコガ	県内全域	1.9	1.1	1.5	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	3.9	1.5	1.7	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	3.9	1.5	1.7	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.2	0.4	0.5	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.8	1.5	0.4	
ハマキムシ類	東葛飾、印旛	0.9	1.9	0.9		
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	4.7	5.3	4.7	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	2.8	0.7	0.3	
	クサギカメムシ	〃	0.5	0.4	0.7	
	カメムシ類	〃	8.0	6.4	5.8	
	マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)	〃	0.3	0.4	0.7	

注) 種類別の単位の違いに注意

○気象予報

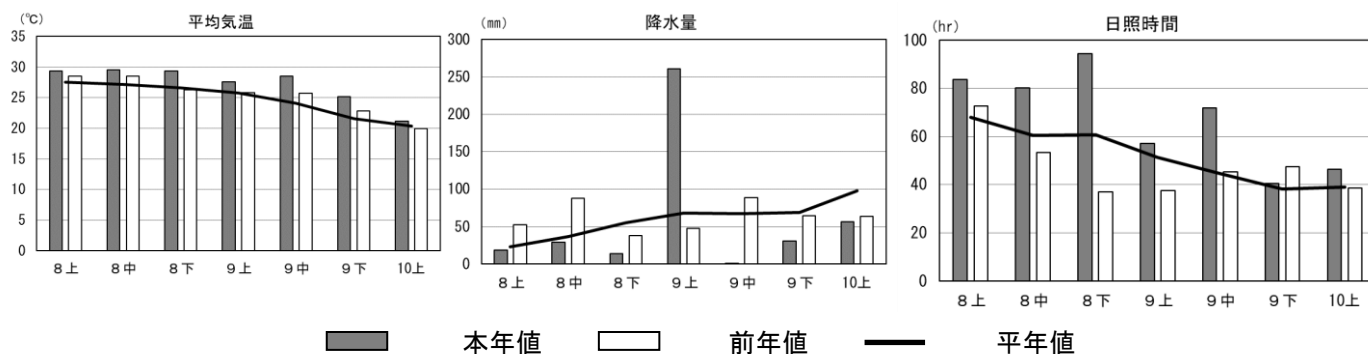
10月12日気象庁発表
 関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	50	30	20
日照時間	20	30	50

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値
 (10月14日～11月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(℃)	16.4	17.2	16.5
降水量(mm)	148.7	197.5	198.5
日照時間(hr)	142.7	144.1	146.8



過去2か月の気象概況 (アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は11月15日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 キ ュ ウ リ	うどんこ病	やや少	11月上旬発生量：少(-) 気象予報：日照時間並か多(+)	<ul style="list-style-type: none"> 窒素肥料の多追肥を避ける。 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	褐斑病	並	11月上旬発生量： 並[発生なし] 気象予報：日照時間並か多(-)	<ul style="list-style-type: none"> 多湿条件で発生しやすい。そのため、換気や通風等に注意し、施設内が過湿にならないよう管理する。
	べと病	並	11月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並か多(-)	<ul style="list-style-type: none"> 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	オンシツコナジラミ	並	11月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：降水量並か少(+)	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の雑草を除去する。 薬剤散布は、葉裏まで丁寧に行う。 オンシツコナジラミはキュウリ黄化病を、タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病を媒介する。
	タバココナジラミ	並	11月上旬発生量：並 気象予報：降水量並か少(+)	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取ってほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
冬 キ ャ ベ ツ	菌核病	並	今春発生量：並 11月上旬発生量： 並[発生なし] 気象予報：気温並 降水量並か少(-)	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取ってほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
	黒腐病	並	11月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：気温並 降水量並か少(-)	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は葉先の水孔や傷口から侵入しやすいので、風雨後は注意し、発生初期から薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋 冬 ネギ	さび病	並	11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温並 降水量並か少（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期から薬剤防除する。 ・ 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。 ・ べと病は「ねぎべと病なび」も参考に予防散布を行う。なお、「ねぎべと病なび」の使用にあたっては担い手支援課への申請が必要である。
	べと病	並	11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温並 降水量並か少（－）	
	ネギアザミウマ	やや少	11月上旬発生量 被害度：少（－） 寄生株率：少（－） 気象予報：気温並 降水量並か少（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生が確認された場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 ・ 葉の隙間等に潜んでいることもあるので、薬剤散布はていねいに行う。
	ネギハモグリバエ	並	11月上旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並か少（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生が確認された場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 ・ 収穫残さは発生源となるため、ほ場内に放置せず、適切に処分する。
冬 レタス	菌核病	並	11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温並 降水量並か少（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。 ・ トンネル被覆前に予防散布を徹底する。 ・ トンネル被覆後は過湿にならないよう換気に努める。 ・ 灰色かび病については、令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照する。
	灰色かび病	並	11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温並 降水量並か少（－）	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	やや少	11月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並か多（＋）	・ 発生初期から薬剤防除する。
	灰色かび病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：日照時間並か多（－）	・ 施設内の換気を良くし湿度を下げる。 ・ 発病葉、発病果は速やかに摘除し、適切に処分する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 ・ <u>令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」</u> も参照する。
	アブラムシ類	並	11月上旬発生量：並 気象予報：降水量並か少（＋）	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	やや少	11月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並か多（＋）	
カーネーション	アザミウマ類	並	10月下旬発生量：並 10月黄色粘着トラップ誘殺数： 並 気象予報：気温並 降水量並か少（＋）	・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	やや少	10月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並か多（＋）	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
野菜・花き共通	コナガ	並	10月下旬発生量 施設ストック：やや多（+） 露地ストック： 並 [発生なし] 11月上旬発生量 冬キャベツ：並 [発生なし] 10月フェロモントラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温並 降水量並か少（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努め、発生初期に薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	シロイチモジ ヨトウ	多	10月下旬発生量 カーネーション： 並 [発生なし] 11月上旬発生量 秋冬ネギ：多（+） 10月フェロモントラップ誘殺数 ：多（+） 気象予報：気温並 降水量並か少（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：10月下旬～11月上旬、果樹・花き：10月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
夏秋トマト (山武)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	11.56	23.20	
	"	発病果率 (%)	0.00	0.09	0.27	
	"	果実発病度	0.00	0.70	1.40	
	葉かび病	発病株率 (%)	0.00	9.90	10.40	
	黄化葉巻病	発病株率 (%)	5.50	5.92	8.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	6.00	19.52	28.80	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	6.16	20.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	6.00	0.00	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率 (%)	2.00	2.90	8.80	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	4.58	0.00	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率 (%)	1.20	13.46	6.40	
	褐斑病	発病葉率 (%)	0.00	0.03	0.00	
	べと病	発病葉率 (%)	0.40	1.21	0.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.10	0.00	
	ワタヘリクロノメイガ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.80	5.28	2.40	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	2.40	6.05	15.20	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
冬キャベツ (海匝)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	0.40	0.38	2.40	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.03	0.08	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
秋冬ネギ (長生、山武)	黒斑病	発病度	0.00	4.03	1.80	
	さび病	発病度	0.00	0.14	0.00	
	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	8.00	23.91	21.30	
	"	成幼虫寄生株率 (%)	12.00	40.32	26.00	
	ネギアブラムシ	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.68	0.80	
	ハスモンヨトウ	被害株率 (%)	0.00	0.28	0.40	
	シロイチモジヨトウ	被害株率 (%)	8.40	0.76	0.40	
	ネギコガ	被害株率 (%)	0.40	0.08	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	5.30	5.46	15.90	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	腐敗病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ネキリムシ類	被害株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.30	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	2.59	4.80	3.06	
	炭そ病	発病株率 (%)	0.24	0.14	0.24	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	5.18	4.61	1.65	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.24	0.47	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	2.82	12.81	0.76	
ナシ (県内全域)	黒星病 (秋型病斑)	発病葉率 (%)	2.74	1.53	1.97	
	うどんこ病	発病度	2.21	3.40	1.10	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.04	0.11	0.00	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	1.76	5.10	9.12	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	22.00	5.18	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.34	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.28	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.10	0.00	
	カメムシ類	叩き落とし虫数	0.20	0.36	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率 (%)	8.50	2.94	3.75	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.58	0.00	
カーネーション (安房)	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.84	0.00	頭/30日
	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.40	0.00	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	7.20	17.58	1.60	
	アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	6.39	8.13	0.53	
	オオタバコガ	幼虫寄生株率 (%)	1.60	0.48	0.00	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	ヨトウムシ類	被害株率 (%)	0.00	3.04	0.80	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	7.58	0.00	
ストック (安房)	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	0.80	1.47	1.00	
	コナガ (施設)	幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.16	0.00	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	0.00	6.13	0.00	
	コナガ (露地)	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.23	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	2.83	0.00	

トラップ月間誘殺数 (10月) *種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	0.0	5.5	1.9	頭/30日
	クサギカメムシ	"	0.0	1.2	1.9	
	ツヤアオカメムシ	"	1.0	8.9	0.0	
	カメムシ類	"	1.0	15.6	3.9	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.0	0.2	0.0	頭/日
	ヒメコガネ	"	0.0	0.0	0.0	
	コナガ	海匝、安房	0.8	1.1	0.6	
	ハスモンヨトウ	県内全域	30.4	32.0	17.5	
	シロイチモジヨトウ	"	4.9	1.4	2.4	
	オオタバコガ	"	7.1	3.2	4.2	
	タバコガ	"	1.0	0.6	1.0	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.6	0.6	0.7	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.6	0.6	0.7	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	1.2	1.1	1.4	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	3.2	3.3	1.9	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	4.4	4.4	3.3	
チャバネアオカメムシ シ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	0.8	1.5	0.8	頭/日
	ツヤアオカメムシ	"	0.7	0.6	0.3	
	クサギカメムシ	"	0.4	0.4	0.5	
	カメムシ類	"	2.0	2.6	1.7	
	マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)	"	0.2	0.2	0.2	

○気象予報

11月9日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

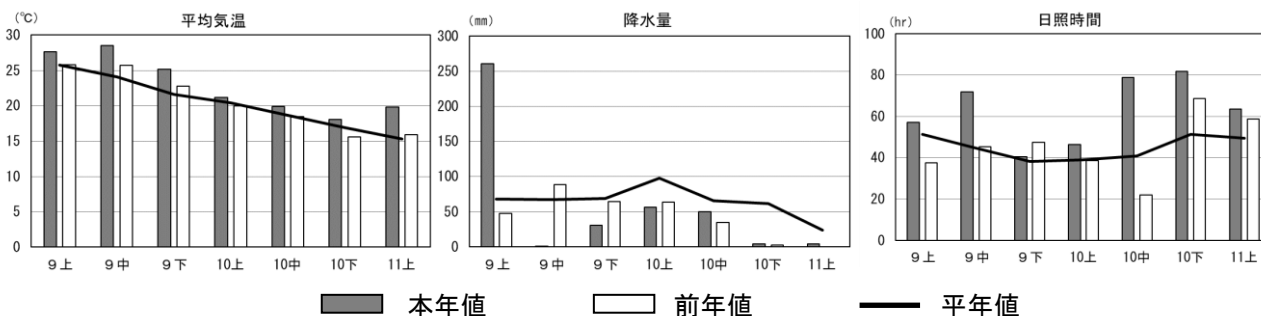
向こう1か月間の各気象要素の平年値

(11月11日～12月10日)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	30	30	40
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	11.7	12.7	12.0
降水量(mm)	88.9	133.3	136.2
日照時間(hr)	148.3	138.7	146.3

出典：気象庁ホームページ



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は12月20日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和5年12月20日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 キ ユ ウ リ	うどんこ病	少	12月上旬発生量：少(-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 窒素肥料の多追肥を避ける。 発病初期から薬剤防除する。
	褐斑病	やや多	12月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 除去した被害葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	菌核病	並	12月上旬発生量：並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 発病果や発病葉は速やかに施設外へ持ち出し、適切に処分する。
	べと病	多	12月上旬発生量：多(+) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し、適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	コナジラミ類	並	12月上旬発生量 オンシツコナジラミ： 並〔発生なし〕 タバココナジラミ： やや多(+) 12月黄色粘着トラップ誘殺数： やや少(-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> タバココナジラミはキュウリ退緑黄化病、オンシツコナジラミはキュウリ黄化病のウイルスを媒介するため、コナジラミ類の防除は重要である。 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	多	12月上旬発生量：多（+） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	灰色かび病	並	12月上旬発生量 果実発病度：並 [発生なし] 発病株率：並 [発生なし] 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。 発病果や発病茎葉は施設外へ持ち出し、適切に処分する。 令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
	オンシツコナジラミ	並	12月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、発生初期から薬剤防除する。 タバココナジラミは、黄化葉巻病を媒介する。黄化葉巻病発病株は抜き取り、適切に処分する。
	タバココナジラミ	多	12月上旬発生量：多（+） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の除草や防虫網の設置など耕種的・物理的防除に努める。 令和5年度病害虫発生予察注意報第2号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」も参照。
	黄化葉巻病	多	12月上旬発生量：多（+） タバココナジラミ 12月上旬発生量：多（+） 12月予想発生量：多（+）	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照。
キ ャ ベ ツ	菌核病	並	12月上旬発生量： 冬キャベツ：並 [発生なし] 春キャベツ：並 [発生なし] 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取ってほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 薬剤防除は、株元まで薬剤が到達するように、ていねいに行う。
	黒腐病	並	12月上旬発生量： 冬キャベツ：並 春キャベツ：並 [発生なし] 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は葉先の水孔や傷口から侵入しやすいので、既発ほ場では風雨後の防除に努める。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋 冬 ネ ギ	さび病	並	12月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
	べと病	並	12月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温並 日照時間並 降水量並	
	ネギアザミウマ	並	12月上旬発生量 被害度：やや少（－） 寄生株率：並 気象予報：気温並 降水量並	
レ タ ス	灰色かび病	並	12月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病株は速やかに抜き取りほ場外に持ち出し適切に処分する。 ・ トンネル内が過湿にならないようにする。 ・ 灰色かび病は令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
	菌核病	並	12月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温並 降水量並	
イ チ ゴ	うどんこ病	やや少	12月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉かき作業を適宜行い、切除部位を適切に処分する。 ・ 発病初期から薬剤防除する。 ・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 ・ 葉かき作業を適宜行い、切除部位を適切に処分する。 ・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	アブラムシ類	やや多	12月上旬発生量：並 11月黄色粘着トラップ誘殺数： やや多（＋） 気象予報：日照時間並	
	ハダニ類	やや少	12月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
温州ミカン	ミカンハダニ	多	11月下旬発生量：多（+） 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> マシン油乳剤による越冬期防除を行う。ただし、樹勢の弱い樹では散布を避ける。 寒害を受けやすい園地や着花量の少ない園地では、4～5月にマシン油乳剤を散布する。
カーネーション	アザミウマ類	やや多	11月下旬発生量：並 11月黄色粘着トラップ誘殺数：やや多（+） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	やや少	11月下旬発生量：やや少（-） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
ストック	菌核病	並	11月下旬発生量 施設ストック：並 [発生なし] 露地ストック：並 [発生なし] 前作発生量（2月下旬） 施設ストック：並 [発生なし] 露地ストック：並 [発生なし] 気象予報：気温並 日照時間並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分する。 施設栽培では過湿にならないよう注意する。
野菜・花き共通	コナガ	並	11月下旬発生量 施設ストック：並 露地ストック：並 12月上旬発生量 冬キャベツ：並 春キャベツ：並 11月フェロモントラップ誘殺数：やや少（-） 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：12月上旬、果樹・花き：11月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			今年値	平年値	前年値	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率 (%)	3.80	12.69	7.40	頭/30日
	褐斑病	発病葉率 (%)	0.20	0.28	0.20	
	菌核病	果実発病度	0.00	0.66	0.00	
	灰色かび病	果実発病度	0.00	0.20	0.00	
	〃	発病株率 (%)	0.00	0.50	0.80	
	べと病	発病葉率 (%)	16.60	6.38	3.40	
	ワタヘリクロノメイガ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	1.30	0.80	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.80	0.40	0.80	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	8.73	24.25	10.44	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.20	0.00	
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.10	0.00		
冬春トマト (長生、海匠)	うどんこ病	発病株率 (%)	8.00	1.56	3.60	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.12	0.80	
	〃	果実発病度	0.00	0.04	0.40	
	すすかび病	発病株率 (%)	0.00	0.20	0.00	
	黄化葉巻病	発病株率 (%)	0.90	0.10	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.80	0.08	0.40	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率 (%)	1.20	0.44	0.40	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.04	0.00	
冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.80	0.00	
	黒腐病	発病度	0.40	1.79	2.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	3.20	0.88	0.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.08	0.22	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	タマナギンウワバ	10株当たり寄生幼虫数	0.16	0.05	0.08	
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.09	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	2.16	4.00	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.08	0.08	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
秋冬ネギ (長生、山武)	黒斑病	発病度	0.00	3.86	1.56	
	さび病	発病度	0.00	0.39	0.00	
	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	14.13	22.77	17.56	
	〃	成幼虫寄生株率 (%)	36.50	36.38	21.78	
	ネギアブラムシ	成幼虫寄生株率 (%)	1.50	0.49	0.44	
	ハスモンヨトウ	被害株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率 (%)	4.50	0.24	0.00	
	ネギコガ	被害株率 (%)	0.00	0.17	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	1.00	1.54	5.67	
レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.28	0.00	
	モザイク病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	斑点細菌病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	ネキリムシ類	被害株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.20	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
イチゴ (山武、海匠、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	1.75	3.73	2.12	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	3.50	3.84	3.29	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.74	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	6.50	16.62	4.94	
温州ミカン (安房)	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	43.40	6.00	0.00	
	クワゴマダラヒトリ	被害果率 (%)	0.00	0.00	0.00	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
カーネーション (安房)	萎凋症	発病株率 (%)	0.00	0.56	0.00	頭/30日
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	12.00	16.20	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	9.10	4.22	2.22	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	25.55	32.99	12.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	5.12	0.00	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
ヨトウムシ類	被害株率 (%)	0.00	1.02	0.00	頭/30日	
ストック (安房)	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	2.40	3.78	0.00	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.90	0.00	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	15.20	11.32	0.00	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	4.80	3.27	0.00	
	アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	4.74	0.00	

トラップ月間誘殺数 (11月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数 (頭/日)			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.5	2.0	0.7	
	ハスモンヨトウ	県内全域	34.1	20.5	14.7	
	シロイチモジヨトウ	〃	1.7	0.4	0.5	
	オオタバコガ	〃	3.2	1.3	3.1	
	タバコガ	〃	0.1	0.1	0.2	

○気象予報

12月14日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

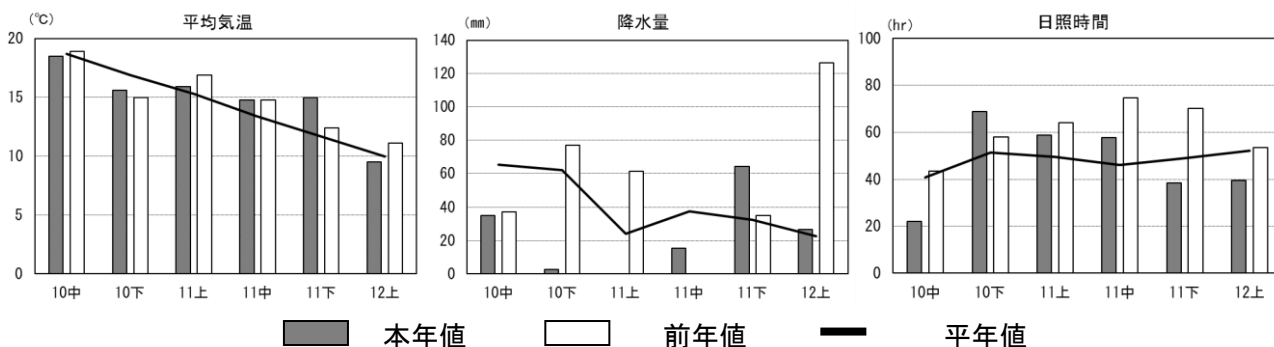
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	30	30	40
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(12月16日～1月15日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	7.0	7.6	7.3
降水量(mm)	52.4	83.6	81.0
日照時間(hr)	188.6	177.3	175.1



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は1月18日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和6年1月18日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	並	1月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並か多(-)	<ul style="list-style-type: none"> 発病初期から薬剤防除する。 発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。
	オンシツコナジラミ	並	1月上旬発生量：並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並か多(+)	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、発生初期から薬剤防除する。
	タバココナジラミ	多	1月上旬発生量：多(+) 気象予報：日照時間並か多(+)	<ul style="list-style-type: none"> タバココナジラミは、黄化葉巻病を媒介する。黄化葉巻病発病株は抜き取り、適切に処分する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 令和5年度病害虫発生予察注意報第2号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」及び令和4年度病害虫発生予報第8号P4「これから注意を要する病害虫」も参照。
キャベツ	菌核病	やや多	1月上旬発生量 冬キャベツ：やや多(+) 春キャベツ：並〔発生なし〕 気象予報：気温高(+) 降水量並か少(-)	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 薬剤防除は、株元まで薬剤が到達するよう、ていねいに行う。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 キ ユ ウ リ	うどんこ病	やや少	1月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病初期から薬剤防除する。 ・ 窒素肥料の多追肥を避ける。
	褐斑病	並	1月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除去した被害葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。 ・ 発病初期から薬剤防除する。
	菌核病	並	1月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病果や発病葉は速やかに施設外へ持ち出し、適切に処分する。
	べと病	並	1月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。 ・ 発病初期から薬剤防除する。
冬 レ タ ス	菌核病	やや少	1月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か少（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 ・ トンネル内が多湿にならないよう、換気に努める。
	腐敗病	やや少	1月上旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温高（－） 降水量並か少（－）	
イ チ ゴ	うどんこ病	やや少	1月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病初期から薬剤防除する。 ・ 発病葉等は施設外へ持ち出し、適切に処分する。
	アザミウマ類	並	1月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	やや少	1月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：日照時間並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 ・ 葉裏に薬剤が十分付着するようていねいに散布する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
施設野菜共通	灰色かび病	並	1月上旬発生量 冬春トマト：並〔発生なし〕 冬春キュウリ：並〔発生なし〕 イチゴ：並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。 発病葉、発病果は施設外へ持ち出し、適切に処分する。 令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
カーネーション	立枯病	並	12月下旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取り、施設外に持ち出し、適切に処分する。
	アザミウマ類	並	12月下旬発生量：並 12月黄色粘着トラップ誘殺数： 並 気象予報：日照時間並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	並	12月下旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
ストック	菌核病	並	12月下旬発生量 施設ストック：並〔発生なし〕 露地ストック：並〔発生なし〕 気象予報：気温高（＋） 日照時間並か多（－） 降水量並か少（－）	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。 施設栽培では過湿にならないよう注意する。
野菜・花き共通	コナガ	並	12月下旬発生量 施設ストック：並 露地ストック：並 1月上旬発生量 冬キャベツ：並〔発生なし〕 春キャベツ：並〔発生なし〕 12月フェロモントラップ誘殺数： 少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か少（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

ナシ黒星病 ～ 春に向けて早期から注意が必要 ～

ナシ黒星病はりん片、新梢、葉、葉柄、果実に黒いすすがついたような病徴を示す病害である。本病への感染は落葉の原因となるほか、裂果や落果による減収につながることから、ナシにおける重要病害の一つとされている。本病は、罹病した落葉や腋花芽のりん片が第一次伝染源となり、3月以降に気温が高く、降水量が多いと伝染しやすくなる。

＜昨年（令和5年）のナシ黒星病の調査結果およびこの結果から考えられること＞

病害虫防除課では県内34地点で、4月から10月にかけて月1回、ナシの病害虫調査を実施している。本調査では黒星病についても調査しており、昨年の調査結果は以下の通りであった。

4月の発病果率は0.91%（平年値0.13%）と、平年を大きく上回った（図1）。この要因の一つとして、3月に平年と比較して気温が高く（図2）、3月中旬および下旬に平年を上回る降雨があった（図3）ことが考えられる。

その後は、黒星病の発病葉率および発病果率は、おおむね平年並～やや少ない傾向で推移した（図1、図4）。

10月に実施したナシ黒星病の秋型病斑調査では、平年を上回る発病葉率となった（図5）。

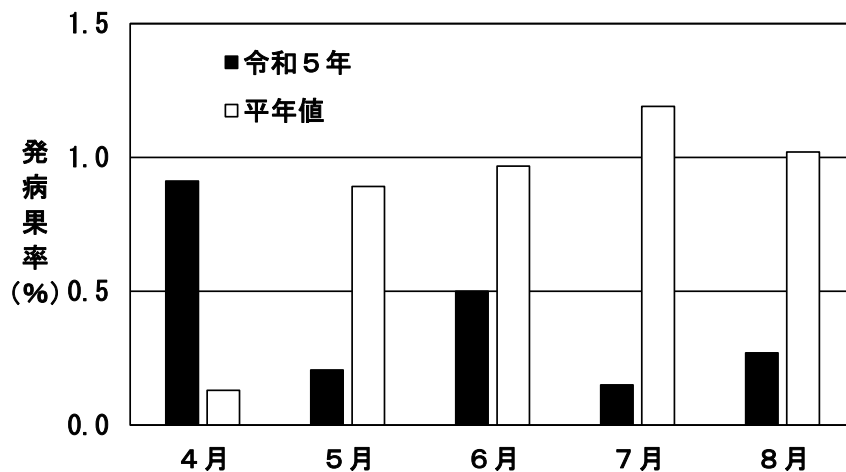


図1 ナシ黒星病の発病果率

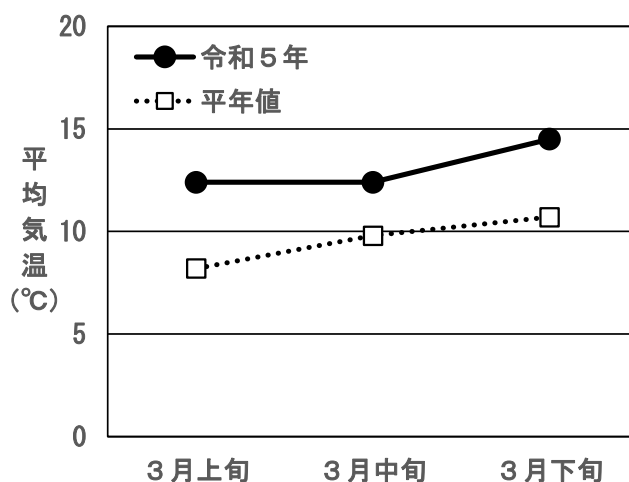


図2 令和5年3月の平均気温

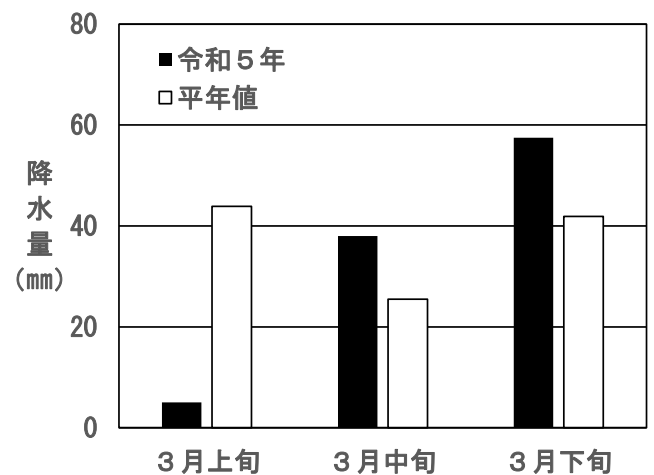


図3 令和5年3月の降水量

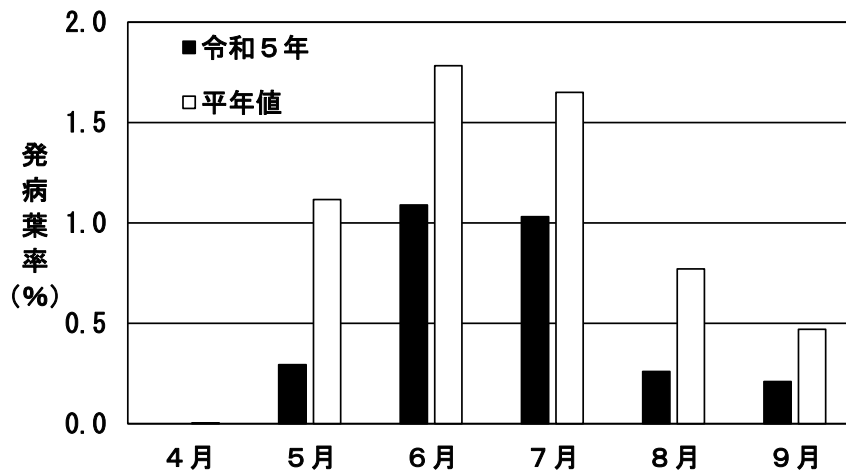


図4 ナシ黒星病の発病葉率

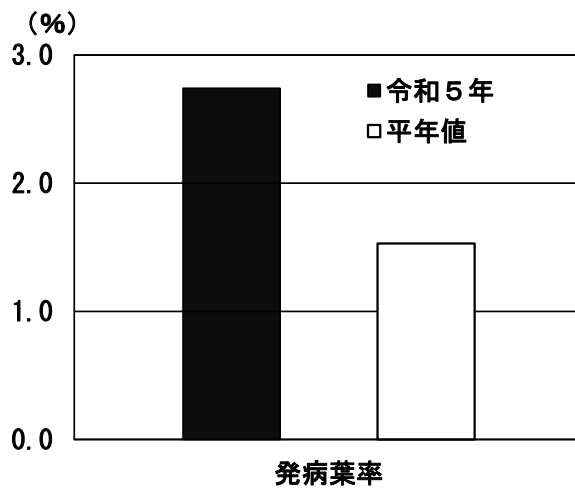


図5 ナシ黒星病（秋型病斑）の発病葉率（10月調査）

図1、図4および図5の平年値は、過去10年（平成25年～令和4年）の数値の平均値のことである。図2、図3は、気象庁のデータ（千葉）を用いており、平年値は平成3年～令和2年の30年間の平均を表している。

<今後の注意点>

本病に罹病した落葉は翌年の第一次伝染源となる。そのため、落葉の除去など、秋冬季にも対策は必要である。

また、12月に気象庁が発表した3か月予報（関東甲信地方）では、3月の気温が平年並、平年より高い確率がそれぞれ40%、降水量は平年並の確率が40%となっている。このことから、ナシの生育ステージが早まり、昨年同様に早期から本病が発生する可能性がある。

これらのことから、防除作業等が遅れないよう、次ページの表を参考に早期から対策を講じる。

<防除法>

表 落葉期から摘果期までのナシ黒星病の防除 ※1

時期 ※2	防除方法 ※3※4※5	FRACコード ※6	希釈倍数 ※3	注意事項※3
落葉以降	落葉の処分			落葉は黒星病の有力な伝染源であるため、集めて園外に埋却するなど適切に処分する。
催芽期～ 発芽期 3月中旬～ 3月下旬	前年に黒星病が多発した園では、剪定後の長果枝先端部が催芽～発芽する時期にオーソサイド水和剤80の600～1,000倍液(3日前/9回、FRACコード：M4)を散布する。ただし、展開葉に薬害の恐れがあるので、散布が遅れないように注意する。また、ハーベストオイル(FRACコード：NC)との近接散布は避ける。			
りん片脱落期 3月下旬～ 4月上旬	被害芽の除去 チオノックフロアブル またはトレノックスフロアブル(30日前/5回) 又はデランフロアブル(60日前/4回)	M3 M9	500倍 1,000倍	デランフロアブルは皮膚のかぶれが問題となる場合があるので注意する。
りん片脱落終了後～ 開花直前 4月上旬	芽基部発病芽の除去 マネージDF(21日前/3回) チオノックフロアブルまたはトレノックスフロアブル(30日前/5回)	3 M3	6,000～ 8,000倍 500倍	この時期の芽基部発病芽の除去は黒星病防除に極めて重要である。 チオノックフロアブル、トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌の発生リスクが少ない薬剤とされている。
開花期 4月中旬	罹病芽基部の除去			罹病芽基部の除去は黒星病の防除に極めて重要である。
受粉終了後 4月中旬～ 4月下旬	スコア顆粒水和剤(14日前/3回) チオノックフロアブルまたはトレノックスフロアブル(30日前/5回)	3 M3	2,000～ 4,000倍 500倍	チオノックフロアブル、トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌の発生リスクが少ない薬剤とされている。
5月上旬	チオノックフロアブルまたはトレノックスフロアブル(30日前/5回) ファンタジスタ顆粒水和剤(前日/3回)	M3 11	500倍 3,000～ 4,000倍	ファンタジスタ顆粒水和剤は黒星病、心腐れ症(胴枯病菌による)対策のため使用する。
5月中旬	ベルコートフロアブル(14日前/5回)	M7	1,500倍	黒星病の多発生が心配される場合には、ユニックス顆粒水和剤47の2,000倍液(21日前/3回、FRACコード：9)とベルコートフロアブル1,500倍液(14日前/5回)を追加散布する。
摘果期 5月下旬	キノンドーフロアブルまたはドキリンフロアブル(3日前/9回)	M1	1,000倍	

- ※1 令和5年版農作物病害虫雑草防除指針(千葉県)から抜粋。農薬の登録内容は令和6年1月1日現在。
 ※2 防除時期の欄に○月○旬の記載があるが、あくまでも目安であるため、生育状況に応じて対応する。
 ※3 農薬の使用にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。
 ※4 防除方法のうち、重要度が特に高いものは、太字で強調した。
 ※5 薬剤名の後の(○/○)は、「収穫前使用日数/最大で使用できる回数」を示すが、異なる薬剤名でも同成分が含まれていることがあるため、成分の使用回数にも注意する。
 ※6 FRACコードとは、殺菌剤の作用の仕組みの分類を表すものである。病原菌の薬剤耐性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（野菜：1月上旬、花き：12月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
冬春トマト (海匠、長生)	萎凋症	萎凋株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率 (%)	1.20	1.80	2.80	
	疫病	発病株率 (%)	0.00	0.04	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.12	0.00	
	〃	果実発病度	0.00	0.01	0.00	
	すすかび病	発病株率 (%)	1.60	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.00	0.13	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率 (%)	0.80	0.00	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率 (%)	1.60	0.44	0.00	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率 (%)	1.00	10.08	0.80	
	褐斑病	発病葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	果実発病度	0.00	0.20	0.00	
	灰色かび病	果実発病度	0.00	0.35	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.11	0.00	
	べと病	発病葉率 (%)	19.20	12.51	9.60	
	オンシツコナジラミ	寄生株率 (%)	0.80	1.55	1.60	
	タバココナジラミ	寄生株率 (%)	0.80	1.23	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	4.00	0.00	0.00	
冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	1.00	0.76	0.00	
	黒腐病	発病度	0.75	2.07	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.80	1.60	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.28	0.08	
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.07	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.94	2.40	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.14	0.00	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.27	0.00	
	菌核病	発病株率 (%)	0.00	1.35	0.00	
	腐敗病	発病株率 (%)	0.00	0.22	0.00	
	べと病	発病株率 (%)	0.00	0.96	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
イチゴ (海匠、山武、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	2.00	3.80	2.82	
	〃	発病果率 (%)	0.03	0.25	0.02	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.05	0.00	
	〃	発病果率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	5.25	2.94	4.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.02	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.25	0.43	0.94	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	8.75	21.53	6.12	
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.40	0.00	
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.56	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	5.20	10.60	2.13	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	12.00	14.20	4.80	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	1.80	2.20	2.32	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	3.14	0.00	
ストック (安房)	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.64	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.24	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	4.80	4.24	1.00	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	1.60	1.52	0.00	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	4.00	19.10	10.40	
	〃	幼虫寄生株率 (%)	0.80	4.36	0.00	
	アブラムシ類 (施設)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.80	4.42	0.00	

トラップ月間誘殺数 (12月)

単位: 頭/日

種類	病害虫名	トラップ設置場所	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.1	0.8	0.3	

○気象予報

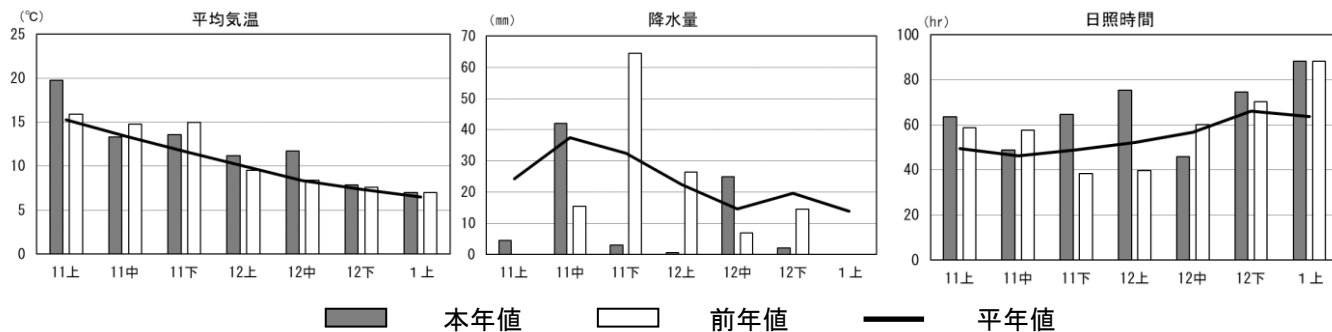
1月11日気象庁発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(1月13日～2月12日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	6.0	6.5	6.3
降水量(mm)	70.5	104.8	80.6
日照時間(hr)	188.1	178.0	172.8



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は3月13日です。なお、注意報等の臨時情報は、逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp



令和6年3月13日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ	イネミズゾウムシ	少	2月越冬量：少(-)	<ul style="list-style-type: none"> 箱施用剤で薬剤防除する。
	イネクロカメムシ	やや少	2月越冬量：やや少(-)	<ul style="list-style-type: none"> 成虫は5月下旬から水田に侵入し始める。加害を受けるほ場では、6月末まで効果が認められる箱施用剤の利用を検討する。 平成30年度試験研究成果普及情報「イネクロカメムシの発生生態と効果的な箱施用剤」 https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/h30_37.pdfも参照。
ネ	ヒメトビウンカ	多	2月越冬量：多(+)	<ul style="list-style-type: none"> イネ縞葉枯ウイルスを媒介する。 前年、縞葉枯病の発生が見られたほ場では、箱施用剤で薬剤防除する。 P5「IIこれから注意を要する病害虫」も参照。
	スクミリンゴガイ	やや多	冬季気温 (12～2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値) ：高(+)	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県 HP、安全農業推進課のジャンボタニシ被害防止対策 https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/applesnail.html及びチラシ「均平で被害軽減!!千葉県のジャンボタニシ対策」 https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r5-zyantani-tirashi.pdfも参照。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	少	3月上旬発生量：少（－） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 被害葉は施設外に持ち出し、適切に処分する。
	コナジラミ類	やや多	3月上旬発生量 オンシツコナジラミ ：多（＋） タバココナジラミ ：並 [発生なし] 2月黄色粘着トラップ誘殺数 ：多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、初期から薬剤防除する。 タバココナジラミについては、黄化葉巻病を媒介する。黄化葉巻病発病株は抜き取り、適切に処分する。 黄化葉巻病については令和5年度病害虫発生予察注意報第2号「<u>トマト黄化葉巻病の発生に注意</u>」も参照。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 令和4年度病害虫発生予報第8号P4「<u>Ⅱこれから注意を要する病害虫</u>」も参照。
春 キ ヤ ベ ツ	菌核病	並	3月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分する。 薬剤防除は株元まで薬剤が届くよう、ていねいに行う。
	アブラムシ類	多	3月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 葉裏に薬剤が十分付着するよう、ていねいに散布する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	並	3月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 被害葉や被害果は施設外に持ち出し、適切に処分する。
	アブラムシ類	やや多	3月上旬発生量：やや多（+） 2月黄色粘着トラップ誘殺数：並 気象予報：気温並か高（+） 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 葉裏に薬剤が十分付着するよう、ていねいに散布する。
	アザミウマ類	並	3月上旬発生量：並 2月黄色粘着トラップ誘殺数：やや多（+） 気象予報：気温並か高（+） 日照時間並	
	ハダニ類	並	3月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温並か高（+） 日照時間並	
黒星病	並	越冬菌密度 秋型病斑発病葉率：やや多（+） 罹病芽率：やや少（-） 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病芽の除去は極めて重要なので、必ず実施する。 りん片脱落期直前から落花後約2週間の防除が重要であるため、適期を逃さず防除する。 <u>令和5年度病害虫発生予報第10号P4「Ⅱこれから注意を要する病害虫」</u>も参照。 	
ビワ	果樹 カメムシ類	多	チャバネアオカメムシ早期発生 予測モデル：多（+）	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類の発生量は、年次変動が激しく、地域差もあるため、地域の発生情報等も参考にする。 予測モデルについては、<u>令和5年度病害虫発生予報第6号P4「Ⅱその他の情報」</u>も参照。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
カーネーション	アザミウマ類	並	2月下旬発生量 ：並 2月黄色粘着トラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温並か高（+） 日照時間並	・ 施設内外の雑草は適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	並	2月下旬発生量 ：並 [発生なし] 気象予報：気温並か高（+） 日照時間並	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
野菜・花き共通	灰色かび病	並	3月上旬発生量 冬春トマト：並 イチゴ：少（-） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並 日照時間並	・ 早期発見に努め、発生初期に防除する。 ・ 被害葉や被害果は施設外に持ち出し、適切に処分する。 ・ <u>令和3年度病害虫発生予報第8号P5「Ⅱこれから注意を要する病害虫」</u> も参照。
	コナガ	並	2月下旬発生量 露地ストック ：並 [発生なし] 3月上旬発生量 春キャベツ ：並 [発生なし] 2月フェロモントラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	・ 早期発見に努め、発生初期に防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

II これから注意を要する病害虫

イネ縞葉枯病の多発が予想されています

縞葉枯病は、ウイルスを保有したヒメトビウンカが吸汁することでイネに感染する。移植後の生育初期に感染すると葉に黄緑色～黄白色の斑紋が縞状に生じ、新葉が巻いて垂れ下がって枯死することにより茎数が減少する。生育中期に感染すると穂の出すくみや奇形となり穂数が減少する。

ヒメトビウンカは、越冬世代が4月上中旬頃にムギほ場などに侵入し、第1世代が増殖する。第1世代が6月上中旬頃、水田に飛来し、吸汁、増殖する。

ヒメトビウンカの越冬虫数が多く、ウイルス保有虫率が高く、発生時期が早いと縞葉枯病の発生が多いと考えられる。

今年はヒメトビウンカの越冬虫数が過去7年で最も多く（図1）、保有虫率が平年並であるが高い水準であり（図2）、発生時期が平年より早いと予測される（図3）ため、前年に縞葉枯病が多発したほ場では注意が必要である。

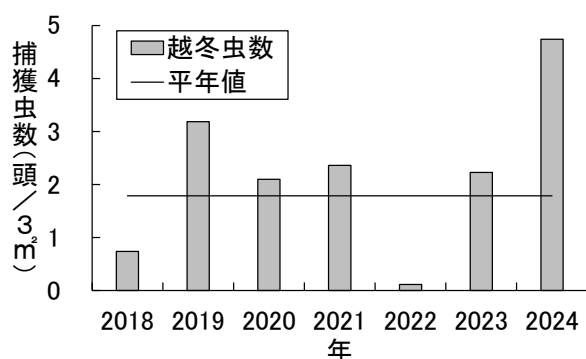


図1 ヒメトビウンカ越冬虫数

- 注1) バキュームブロワーにより畦畔等の雑草地を0.3m×10m 吸い取り捕虫した
 2) 調査月は2月
 3) 平年値は2018～2023年の平均値

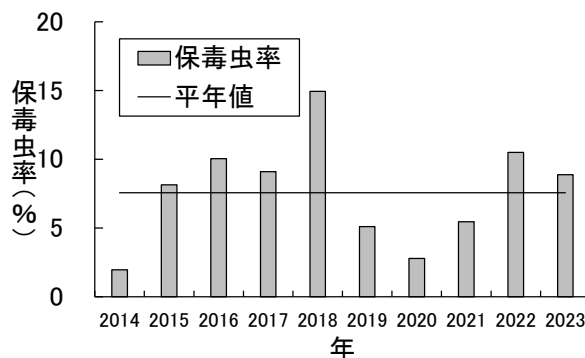


図2 ヒメトビウンカ保有虫率

- 注1) 簡易エライザ (ELISA) 法により検定した
 2) 調査地点は東葛飾、香取、山武地域の4地点
 3) サンプル採取月は11月
 4) 平年値は2014～2022年の平均値

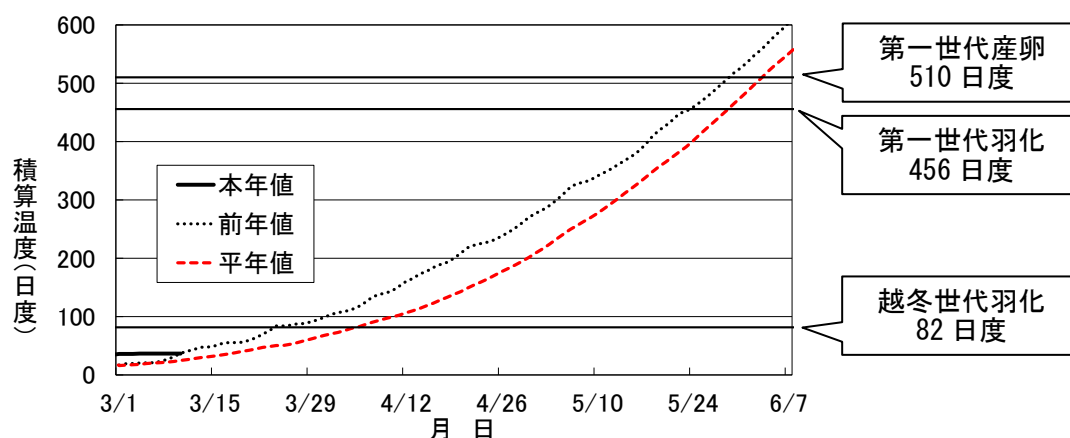


図3 ヒメトビウンカの発生時期予測

- 注1) 発育零点を11℃として、アメダス千葉地点の毎正時気温を1月1日から積算した
 2) 1月1日時点で越冬世代幼虫が4.5齢で越冬すると仮定して、各生育ステージとなる積算温度(日度)を設定した

〈防除法〉

前年に縞葉枯病が多発したほ場で栽培する場合、表を参考にトリフルメゾピリム、フルピリミン等を含む剤を苗箱処理する。

表 ウンカ類又はヒメトビウンカの主な苗箱処理剤

薬剤名	使用量	使用時期	使用方法
ゼクサロン パディート 箱粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり 50g	は種前	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。
	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり 50g	は種時覆土前 ～移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
	高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり50～100g)		
	1kg/10a	移植時	側条施用
フルスロツ トル箱粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり 50g	は種時覆土前 ～移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
リディアE V箱粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり 50g	移植3日前～ 移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
D r . オリ ゼリディア 箱粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり 50g	移植7日前～ 移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
	高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり50～100g)	移植3日前～ 移植当日	
	1kg/10a	移植時	側条施用

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：2月中旬、野菜：3月上旬、果樹：2月、花き：2月下旬）

作物名（調査地域）	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ（県内全域）	イネミズゾウムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.01	1.33	0.06	
	イネゾウムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.12	0.22	0.03	
	イネクロカメムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.01	0.07	0.06	
	ヒメトビウンカ	畦畔3m吸い取り成幼虫数	4.74	1.79	2.23	
	ツマグロヨコバイ	畦畔3m吸い取り成幼虫数	2.23	1.42	0.37	
冬春トマト （海匠、長生）	萎凋症	萎凋株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率（%）	0.00	2.12	2.40	
	灰色かび病	発病株率（%）	0.80	3.12	1.20	
		果実発病度	0.00	0.21	0.00	
	すすかび病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	モザイク病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	黄化葉巻病	発病株率（%）	0.10	0.20	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率（%）	1.20	0.04	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率（%）	0.00	0.16	0.40	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.16	0.00	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	2.46	0.42	0.58	
アザミウマ類	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00		
春キャベツ（海匠）	菌核病	発病株率（%）	0.00	1.60	0.80	
	黒腐病	発病度	0.00	0.12	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	3.20	0.96	1.60	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.19	0.00	
イチゴ （海匠、山武、安房）	うどんこ病	発病株率（%）	0.00	1.39	1.18	
		発病果率（%）	0.00	0.12	0.03	
	灰色かび病	発病株率（%）	0.00	2.67	2.59	
		発病果率（%）	0.00	0.34	0.21	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	6.75	2.95	5.88	
		黄色粘着トラップ誘殺数	1.76	4.87	8.47	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率（%）	0.75	1.04	0.71	
	黄色粘着トラップ誘殺数	6.54	5.44	3.85		
	ハダニ類	雌成虫寄生株率（%）	16.00	30.32	7.29	
ナシ（県内全域）	黒星病（秋型病斑）	発病率（%）	2.74	1.53	1.97	前年10月調査
	黒星病	罹病芽率（%）	0.14	1.41	0.29	
	輪紋病	発病度	0.00	0.02	0.00	
	卵越冬ハダニ類	産卵数	0.00	0.45	0.00	
	ナシチビガ	越冬蛹数	0.00	0.01	0.00	
カーネーション （安房）	萎凋症	発症株率（%）	0.80	0.76	0.00	
	立枯病	発病株率（%）	0.00	0.88	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.26	0.00	
	アザミウマ類	被害株率（%）	8.80	9.30	0.80	
		黄色粘着トラップ誘殺数	3.00	2.89	0.71	
	ヨトウムシ類	被害株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率（%）	0.00	0.72	0.00	
ストック（安房）	コナガ（露地）	被害株率（%）	2.40	13.63	1.33	
	コナガ（露地）	幼虫寄生株率（%）	0.00	1.31	0.00	
	コナガ（施設）	被害株率（%）	6.40	1.63	0.00	
	コナガ（施設）	幼虫寄生株率（%）	3.20	0.00	0.00	
	アブラムシ類（露地）	成幼虫寄生株率（%）	0.00	1.31	0.00	
	アブラムシ類（施設）	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	

*黄色粘着トラップ誘殺数：438cm²の黄色粘着トラップに30日間に誘殺された個体数

トラップ月間日平均誘殺数（2月）

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（頭/日）			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.2	0.1	0.2	

○気象予報

3月7日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

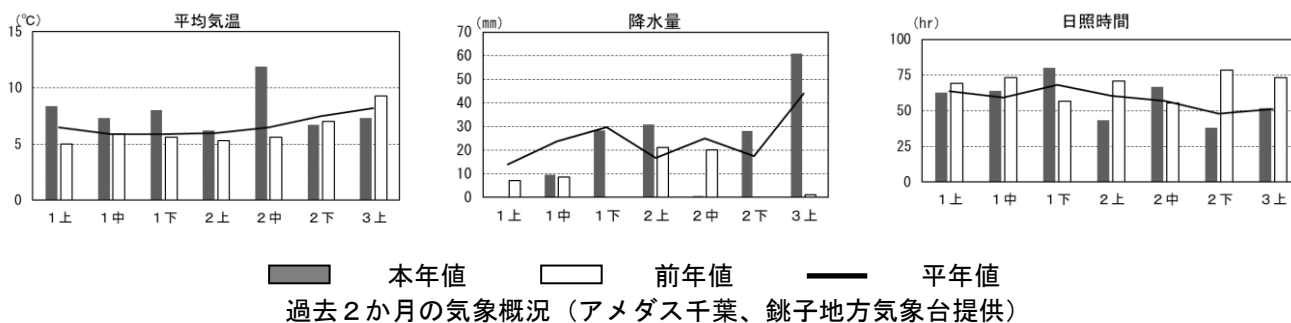
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(3月9日~4月8日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	10.8	10.7	11.2
降水量(mm)	110.3	142.9	160.1
日照時間(hr)	174.6	177.4	172.8

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は4月17日です。なお、注意報等の臨時情報は、逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

